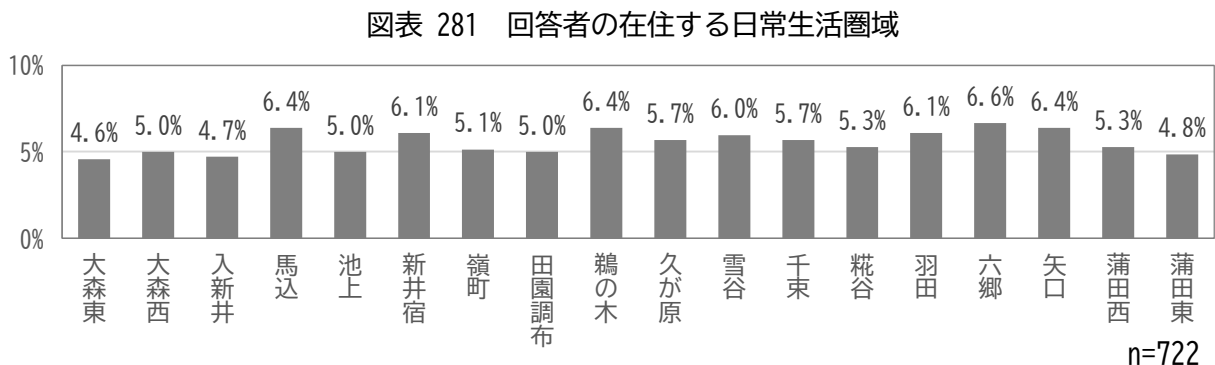


3. 第2号被保険者調査

(1) 回答者の属性

①回答者の在住する日常生活圏域

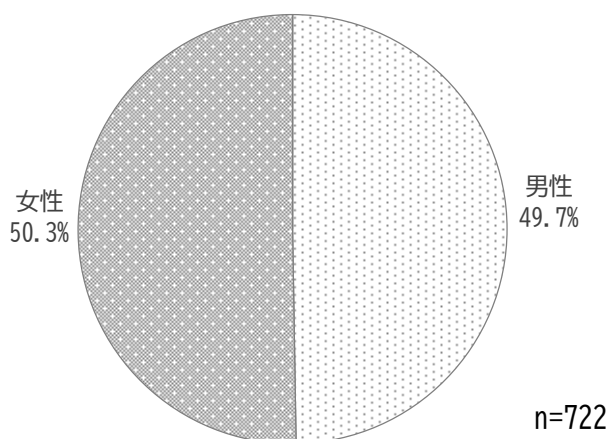
回答者の在住する日常生活圏域については、図表 281 のような分布になっています。



②回答者の性別・年齢

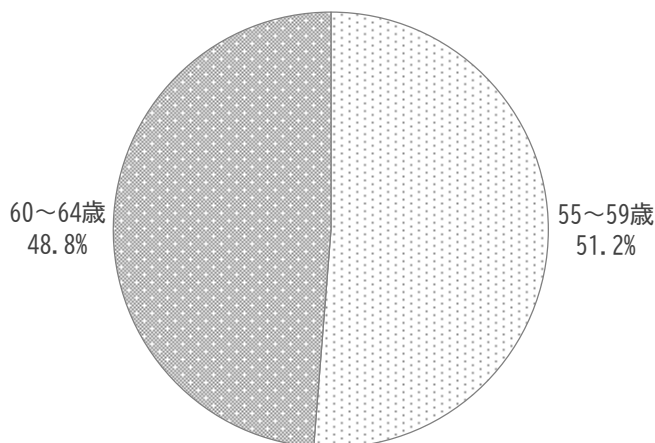
回答者の性別について、「男性」が49.7%、「女性」が50.3%となっています。

図表 282 回答者の性別



また、回答者の年齢について、「55～59歳」が51.2%、「60～64歳」が48.8%となっています。

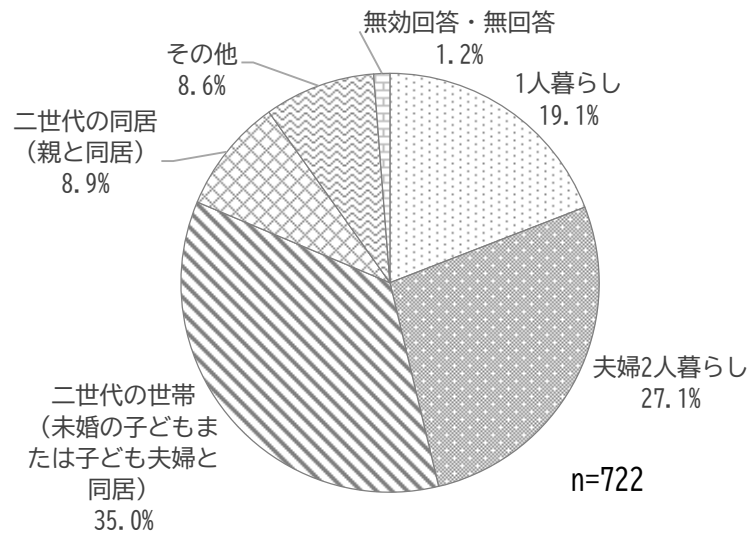
図表 283 回答者の年齢



③回答者の家族構成【問1】

回答者の家族構成については、「二世代の世帯（未婚の子どもまたは子ども夫婦と同居）」が35.0%と最も多く、次いで「夫婦2人暮らし」が27.1%、「1人暮らし」が19.1%となっています。

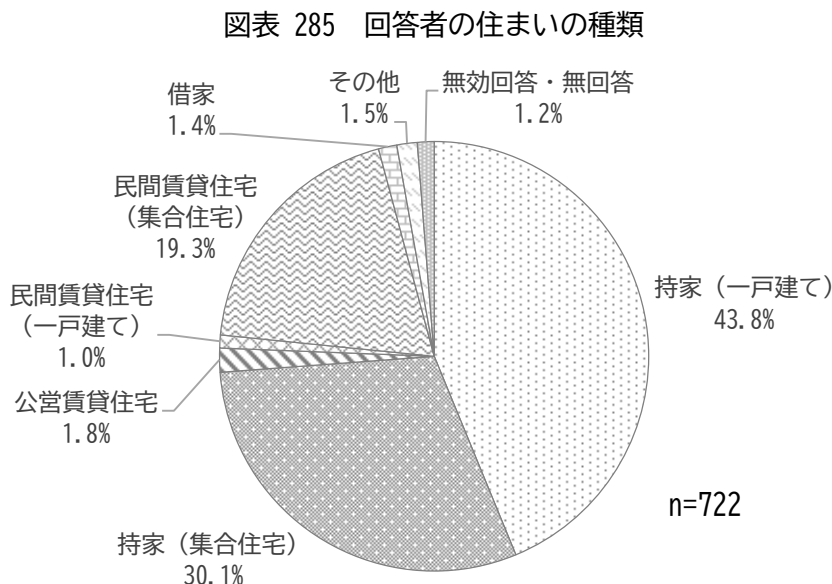
図表 284 回答者の家族構成



(2) 住まいの状況

①回答者の住まいの種類【問2】

回答者の住まいの種類については、「持家（一戸建て）」が43.8%と最も多く、次いで「持家（集合住宅）」が30.1%であり、「持家」との回答が全体の73.9%となっています。



家族構成別の回答を見ると、「1人暮らし」では持家の割合が低く、「民間賃貸住宅（集合住宅）」の割合が高くなっています。

図表 286 回答者の住まいの種類（家族構成別）

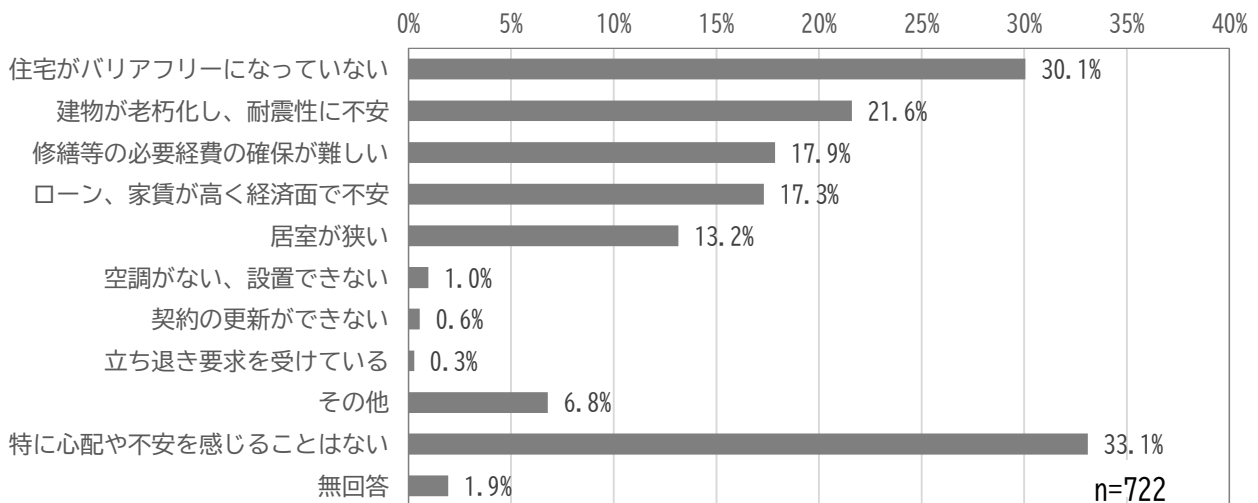
	持家（一戸建て）	持家（集合住宅）	公営賃貸住宅	民間賃貸住宅（一戸建て）	民間賃貸住宅（集合住宅）	借家	その他	無効回答・無回答
1人暮らし (n=138)	15.9%	27.5%	2.9%	0.7%	50.0%	1.4%	1.4%	0.0%
夫婦2人暮らし (n=196)	38.3%	41.8%	1.0%	1.5%	15.3%	1.0%	1.0%	0.0%
二世代の世帯 (未婚の子どもまたは子ども夫婦と同居) (n=253)	51.0%	31.6%	2.8%	0.8%	10.7%	1.6%	1.6%	0.0%
二世代の同居 (親と同居) (n=64)	85.9%	7.8%	0.0%	0.0%	3.1%	3.1%	0.0%	0.0%
その他 (n=62)	56.6%	23.3%	4.7%	0.9%	7.8%	2.0%	3.8%	0.9%

②住まいに関する不安や困りごと【問3】

現在の住まいに関する不安や困りごとについてたずねたところ、「特に心配や不安を感じることはない」との回答は33.1%であり、7割程度の方が何らかの不安や困りごとを抱えているということが把握されました。

不安や困りごととして挙げられたものでは、「住宅がバリアフリーになっていない」が30.1%と最も多く、次いで「建物が老朽化し、耐震性に不安」が21.6%となっています。

図表 287 現在の住まいに関する不安や困りごと（複数回答）



家族構成別の回答を見ると、「二世代の世帯」や「二世代の同居」では「住宅がバリアフリーになっていない」の回答割合が高くなっています。

図表 288 現在の住まいに関する不安や困りごと（家族構成別）

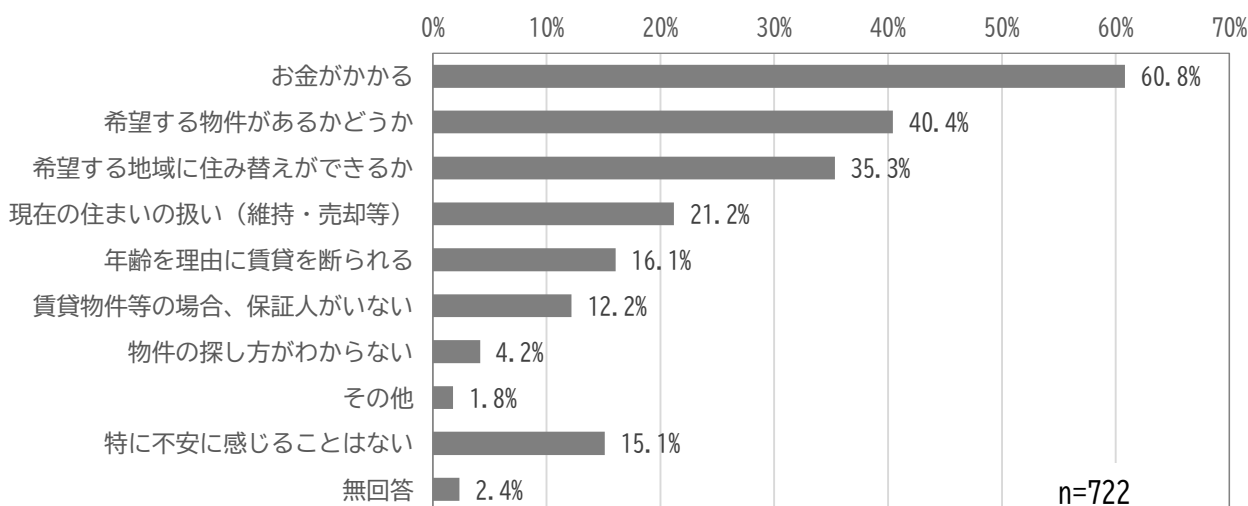
	住宅がバリアフリーになっていない	居室が狭い	空調がない、設置できない	建物が老朽化し、耐震性に不安	ローン、家賃が高く経済面で不安	修繕等の必要経費の確保が難しい	契約の更新ができない	立ち退き要求を受けている	その他	特に心配や不安を感じることはない	無回答
1人暮らし (n=138)	23.2%	16.7%	2.2%	29.7%	23.9%	15.2%	2.2%	0.0%	2.9%	30.4%	1.4%
夫婦2人暮らし (n=196)	27.0%	7.1%	0.5%	16.8%	13.3%	16.3%	0.5%	0.0%	7.7%	40.3%	0.5%
二世代の世帯 (未婚の子どもまたは子ども夫婦と同居) (n=253)	35.2%	17.0%	0.8%	21.3%	18.2%	19.8%	0.0%	0.8%	7.9%	28.5%	0.8%
二世代の同居 (親と同居) (n=64)	39.1%	9.4%	0.0%	26.6%	10.9%	23.4%	0.0%	0.0%	4.7%	35.9%	0.0%
その他 (n=62)	27.4%	12.9%	1.6%	16.1%	21.0%	17.7%	0.0%	0.0%	11.3%	37.1%	1.6%

③住み替えに関して不安なこと【問4】

今後の住み替えに関する不安についてたずねたところ、「特に不安を感じることはない」との回答は 15.1%であり、8割程度の方が住み替えについて何らかの不安を抱えていることが把握されました。

不安に感じていることとしては、「お金がかかる」が60.8%と最も多く、次いで「希望する物件があるかどうか」が40.4%、「希望する地域に住み替えができるか」が35.3%となっています。

図表 289 住み替えに関して不安なこと（複数回答）



家族構成別の回答を見ると、「1人暮らし」では他の家族構成に比べて「年齢を理由に賃貸を断られる」や「賃貸物件等の場合、保証人がいない」の割合が高くなっています。

図表 290 住み替えに関して不安なこと（家族構成別）

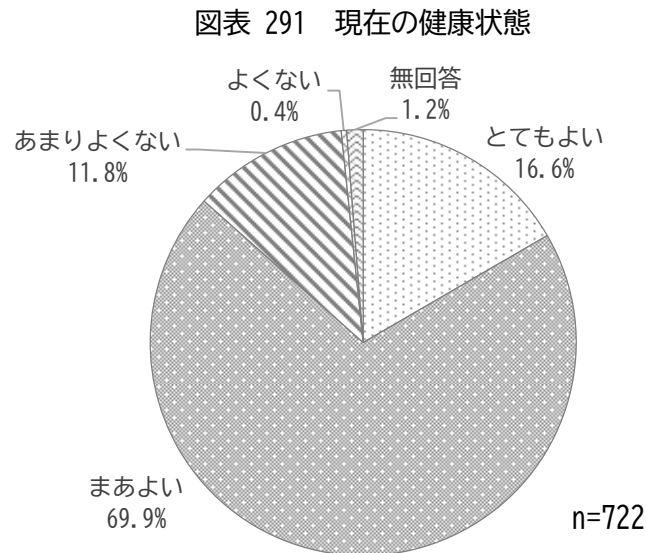
家族構成	お金がかかる	希望する地域に住み替えができるか	物件の探し方がわからない	希望する物件があるかどうか	年齢を理由に賃貸を断られる	賃貸物件等の場合、保証人がいない	現在の住まいの扱い（維持・売却等）	その他	特に不安を感じることはない	無回答	無回答
1人暮らし (n=138)	62.3%	28.3%	6.5%	33.3%	29.0%	23.9%	13.8%	2.2%	11.6%	0.7%	1.4%
夫婦2人暮らし (n=196)	56.1%	33.7%	2.0%	40.3%	10.2%	9.2%	21.9%	2.6%	17.3%	2.0%	0.5%
二世帯の世帯 (未婚の子どもまたは子ども夫婦と同居) (n=253)	66.0%	39.9%	2.8%	45.8%	14.2%	9.1%	23.3%	1.2%	14.2%	1.6%	0.8%
二世帯の同居 (親と同居) (n=64)	57.8%	34.4%	9.4%	42.2%	12.5%	10.9%	26.6%	0.0%	14.1%	0.0%	0.0%
その他 (n=62)	61.3%	41.9%	4.8%	37.1%	19.4%	9.7%	22.6%	3.2%	22.6%	0.0%	1.6%

(3) 心身の健康に関する状況

①現在の健康状態【問5】

自分の現在の健康状態についてどのように感じているかたずねたところ、「とてもよい」が16.6%、「まあよい」が69.9%であり、「健康状態がよい」との回答が86.5%となっています。

年齢別の回答については大きな差は見られませんが、問12、問13において「趣味あり」・「生きがいあり」と回答した方については、「思いつかない」と回答した方に比べ「とてもよい」の割合が高くなっています。



図表 292 現在の健康状態（年齢別・趣味の有無別・生きがいの有無別）

	とてもよい	まあよい	あまりよくない	よくない	無回答
55～59歳 (n=370)	17.0%	71.1%	10.5%	0.5%	0.8%
60～64歳 (n=352)	16.2%	68.8%	13.1%	0.3%	1.7%
趣味あり (n=514)	19.1%	69.8%	9.5%	0.2%	1.4%
思いつかない (n=193)	8.8%	72.0%	17.6%	1.0%	0.5%
生きがいあり (n=431)	20.6%	68.9%	8.6%	0.2%	1.6%
思いつかない (n=269)	9.7%	72.5%	16.7%	0.7%	0.4%

②現在の生活に対する幸福感【問6】

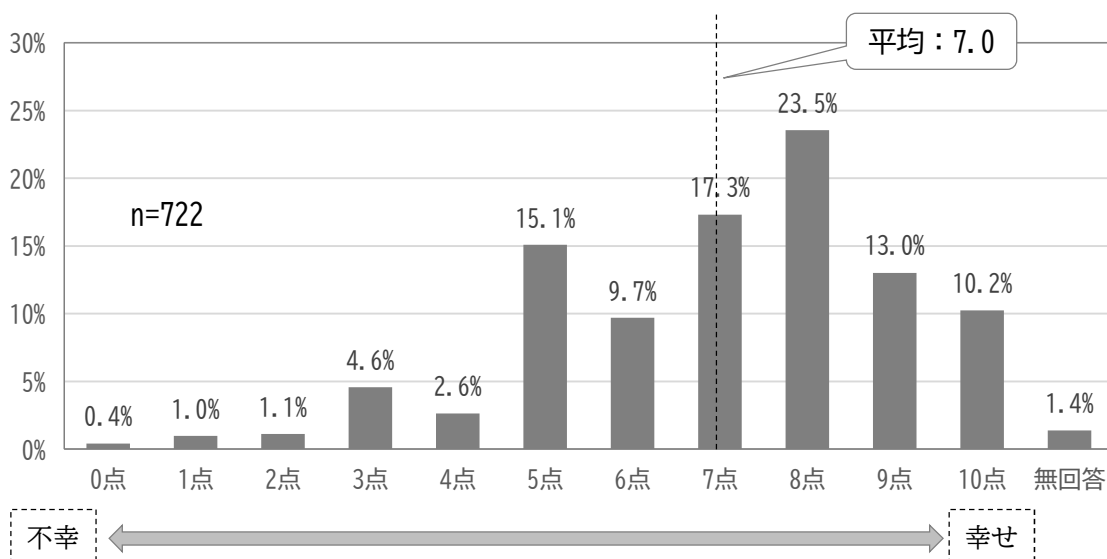
現在の生活をどの程度幸せだと感じているかについて、10点満点での評価をたずねたところ、平均点は7.0点（無回答を除いて算出）でした。

最も多かった回答は「8点」で23.5%、次いで「7点」が17.3%でしたが、一方で「1点」、「0点」といった低い評価の回答も見られます。

年齢別の回答を見ると、ほぼ同様の結果となっていますが、「60～64歳」のほうがわずかに平均点が高くなっています。

また、問12、問13において「趣味あり」・「生きがいあり」と回答した方については、「思いつかない」と回答した方に比べ「8点」以上の回答が多く、平均点が1.3～1.5ポイント程度高くなっています。

図表 293 現在の生活に対する幸福感



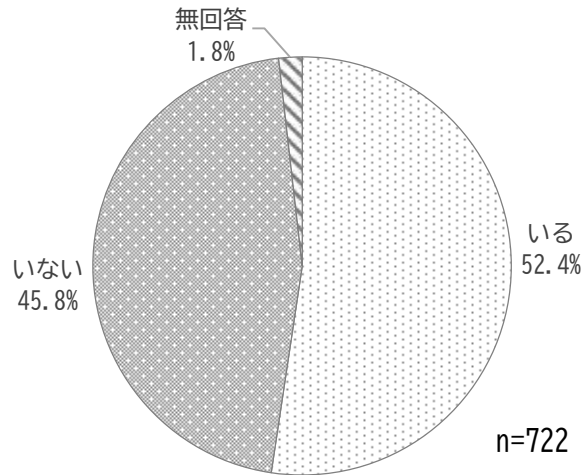
図表 294 現在の生活に対する幸福感（年齢別・趣味の有無別・生きがいの有無別）

	0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点	無回答	平均点
55～59歳 (n=370)	0.5%	1.4%	1.1%	4.9%	2.4%	15.7%	10.3%	16.2%	23.2%	13.8%	9.5%	1.1%	6.93
60～64歳 (n=352)	0.3%	0.6%	1.1%	4.3%	2.8%	14.5%	9.1%	18.5%	23.9%	12.2%	11.1%	1.7%	7.07
趣味あり (n=514)	0.0%	0.4%	1.0%	3.3%	1.4%	12.3%	10.3%	16.0%	27.0%	15.2%	11.9%	1.4%	7.34
思いつかない (n=193)	1.6%	2.6%	1.6%	7.8%	6.2%	21.8%	8.8%	21.8%	14.5%	6.7%	5.7%	1.0%	6.08
生きがいあり (n=431)	0.0%	0.5%	0.5%	3.0%	1.2%	9.0%	7.7%	16.7%	28.1%	17.9%	13.9%	1.6%	7.60
思いつかない (n=269)	1.1%	1.9%	2.2%	6.7%	4.8%	23.8%	13.0%	19.0%	16.7%	5.6%	4.5%	0.7%	6.09

③かかりつけ医の有無【問7】

日ごろから相談できる、かかりつけ医の有無についてたずねたところ、「いる」が52.4%、「いない」が45.8%でした。

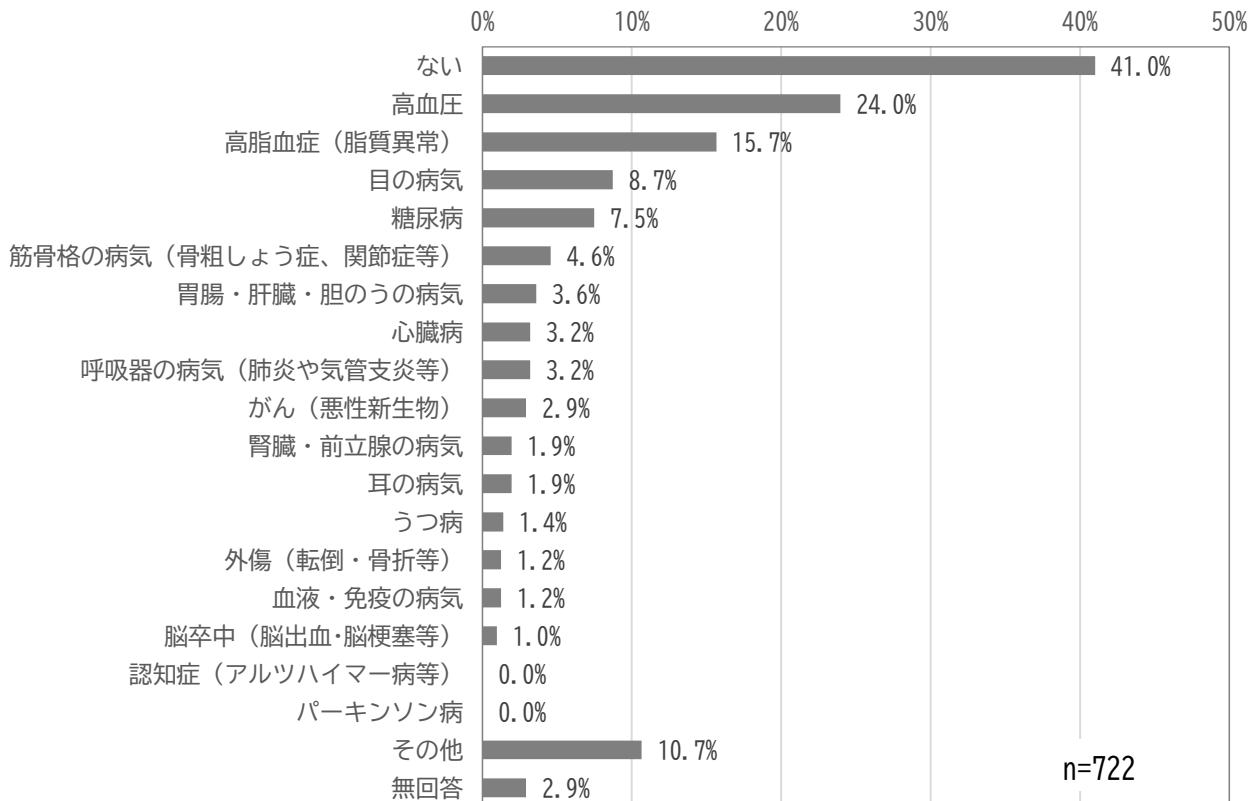
図表 295 かかりつけ医の有無



④現在治療中または後遺症のある病気【問8】

現在治療中または後遺症のある病気については、「ない」との回答が41.0%でした。何らかの病気があるとの回答では、「高血圧」が24.0%と最も多く、次いで「高脂血症（脂質異常）」が15.7%となっています。

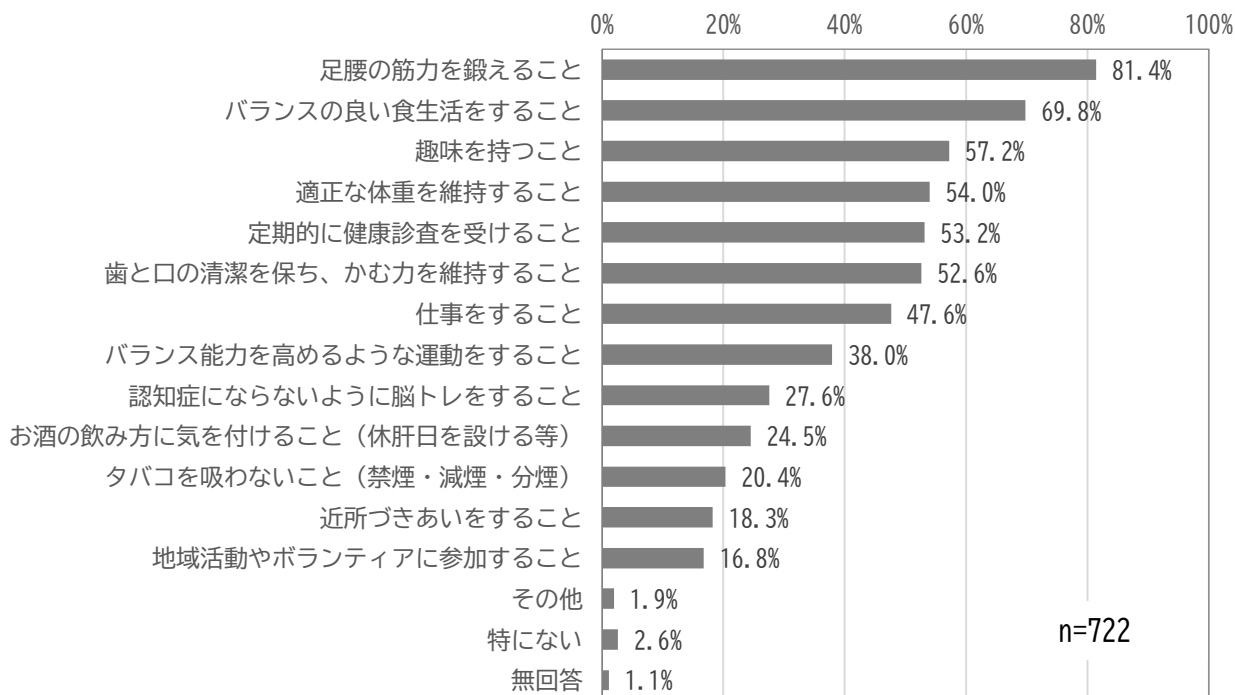
図表 296 現在治療中または後遺症のある病気（複数回答）



⑤充実した高齢期の生活を送るために取り組むべきこと【問9～問11】

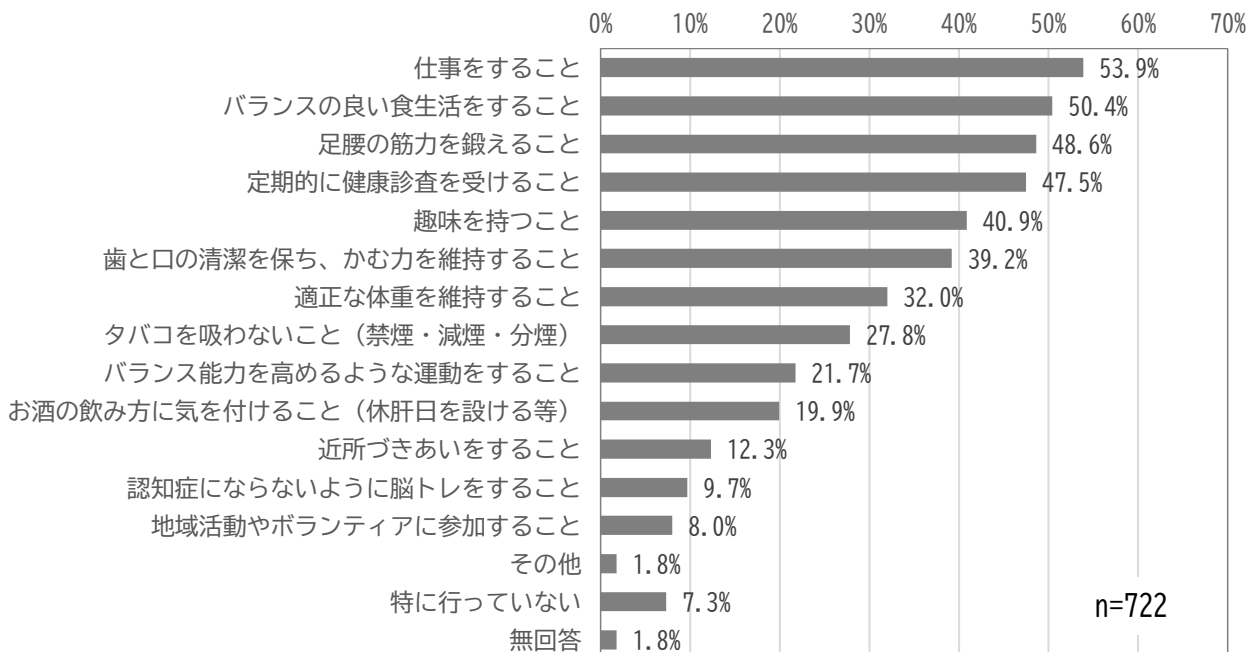
いきいきと充実した高齢期の生活を送るために取り組んだほうがよいと思うことについては、「足腰の筋力を鍛えること」が81.4%と最も多く、次いで「バランスの良い食生活をするこ」とが69.8%、「趣味を持つこと」が57.2%となっています。

図表 297 充実した高齢期の生活を送るために、取り組んだほうがよいと思うこと（複数回答）



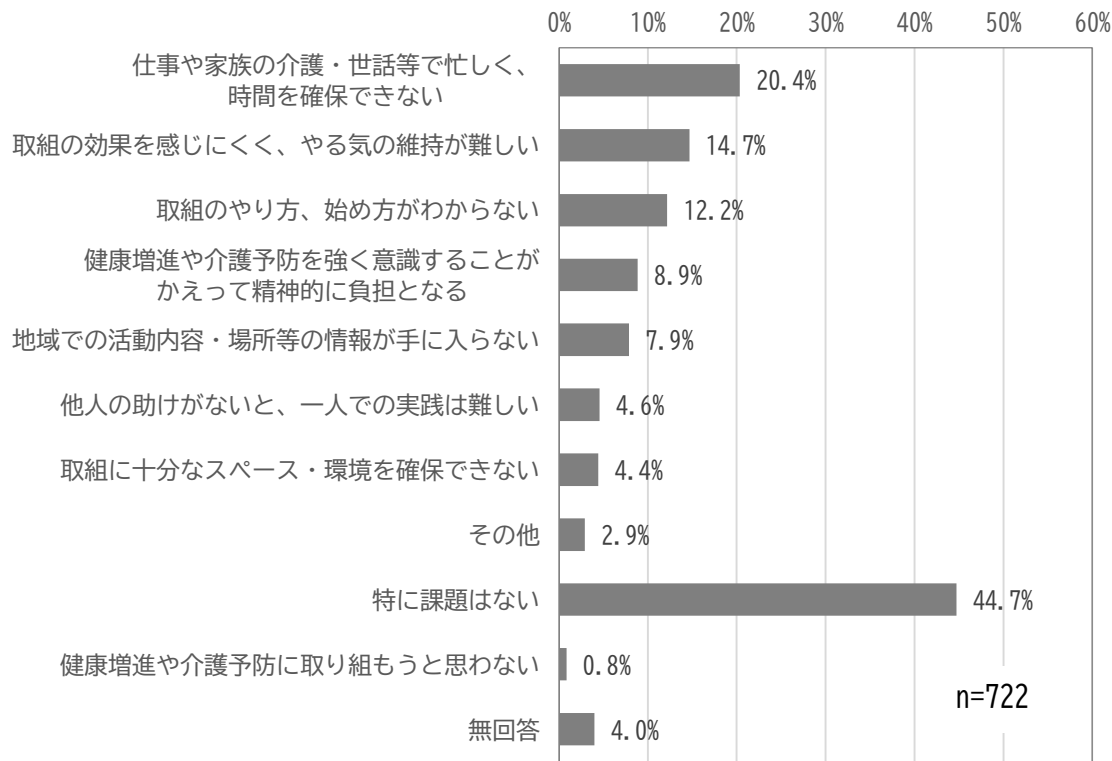
いきいきと充実した高齢期の生活を送るために今実践していることについては、「仕事をするこ」が53.9%と最も多く、次いで「バランスの良い食生活をするこ」が50.4%、「足腰の筋力を鍛えるこ」が48.6%となっています。

図表 298 充実した高齢期の生活を送るために、今実践していること（複数回答）



健康の維持・増進や介護予防に取り組む上での課題についてたずねたところ、「特に課題はない」が44.7%となっており、課題として挙げられたものでは「仕事や家族の介護・世話等で忙しく、時間を確保できない」が20.4%と最も多くなっています。

図表 299 健康の維持・増進や介護予防に取り組むにあたり、抱えている課題（複数回答）



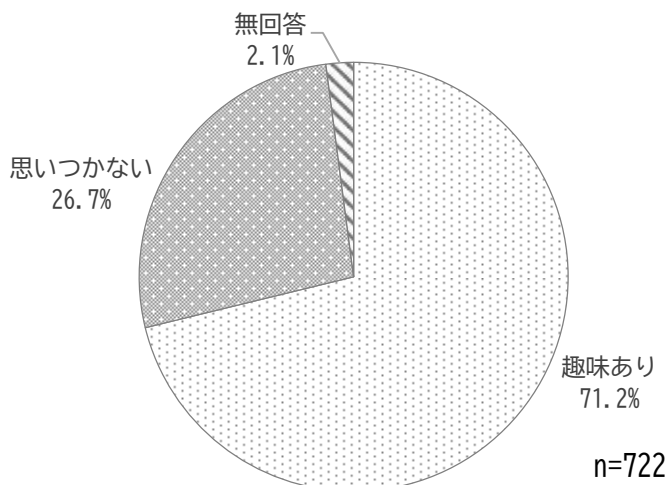
（4）現在の生活に関する状況

①趣味や生きがいの有無【問12・問13】

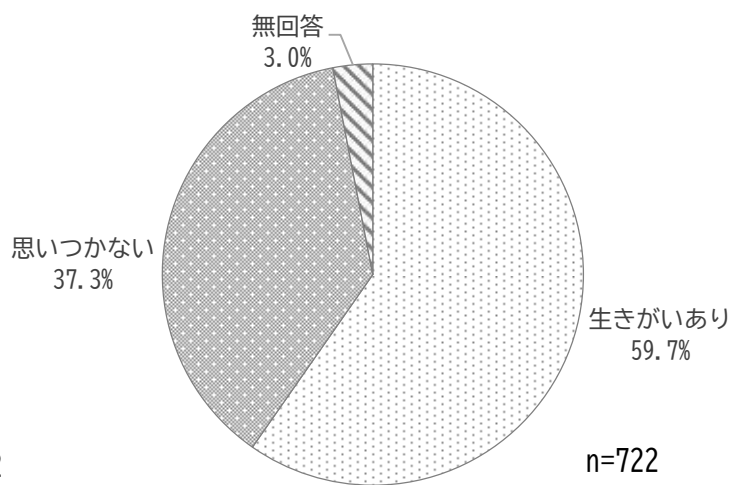
趣味があるかどうかたずねたところ、「趣味あり」との回答が71.2%でした。

また、生きがいと感ずることの有無についてたずねたところ、「生きがいあり」との回答が59.7%となっています。

図表 300 趣味の有無



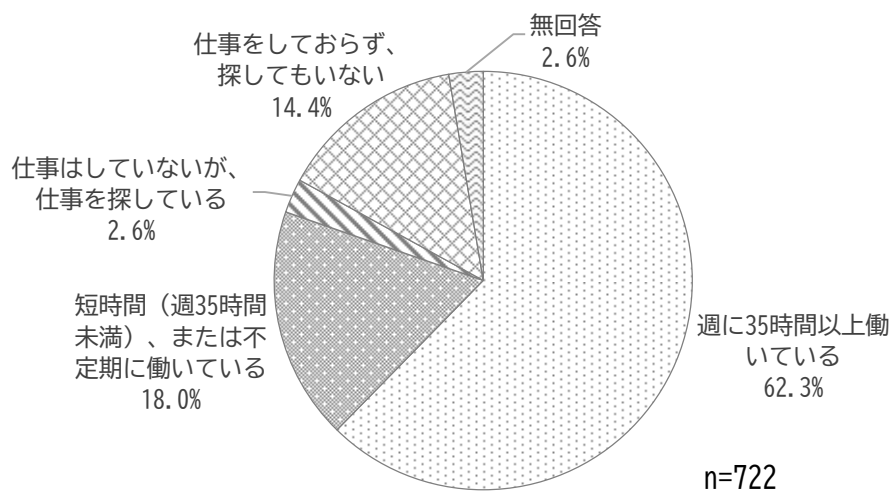
図表 301 生きがいの有無



②現在の就労状況【問14】

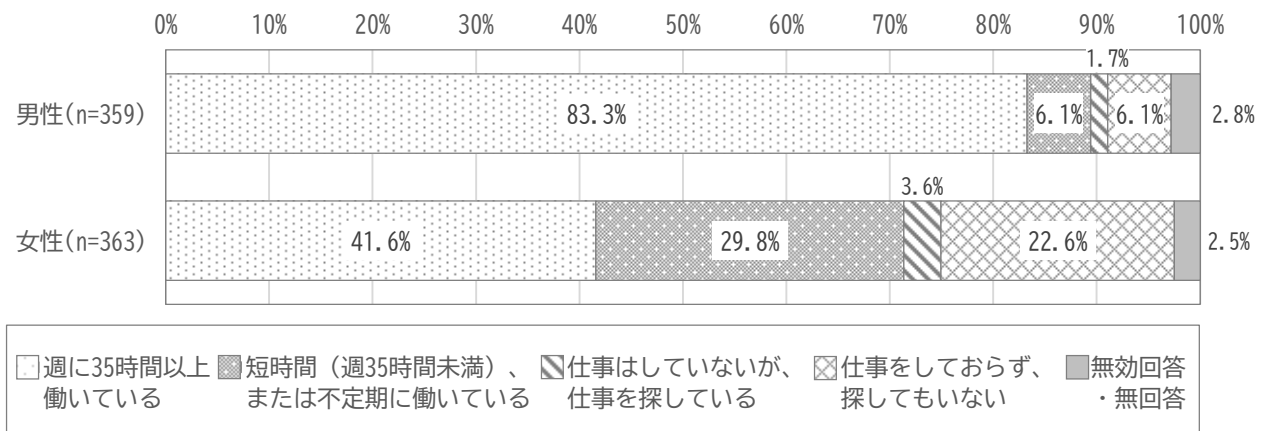
現在、収入を伴う仕事をしているかどうかたずねたところ、「週に35時間以上働いている」が62.3%、「短時間（週35時間未満）、または不規則に働いている」が18.0%であり、仕事をしているとの回答が80.3%となっています。

図表 302 現在の就労状況



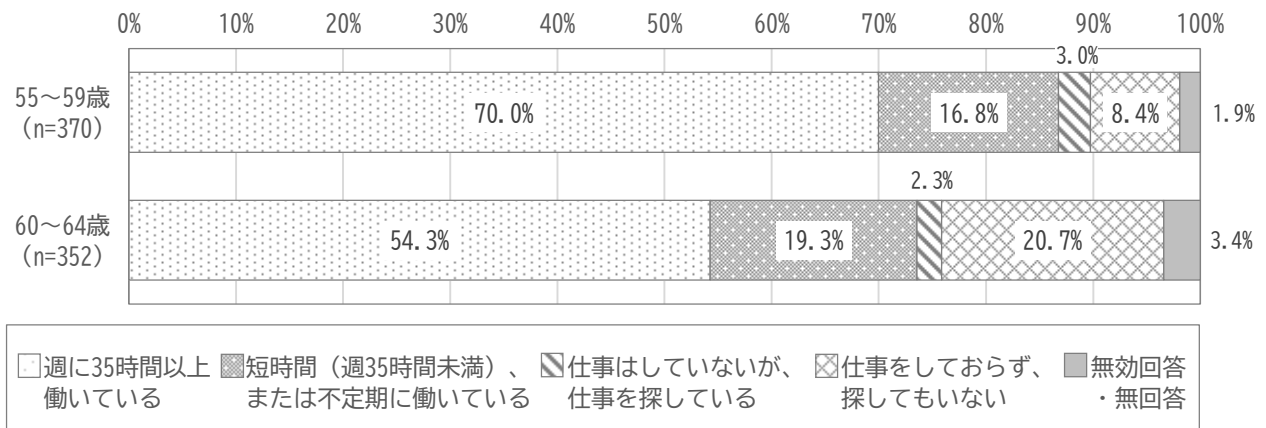
現在の就労状況について、男女別の回答結果を見ると、男性のほうが仕事をしている割合が高く、特に「週に35時間以上働いている」の割合は女性の約2倍となっています。

図表 303 現在の就労状況（男女別）



また、年齢別の回答結果を見ると、「60～64歳」では「週に35時間以上働いている」の割合が低くなっていますが、こうした差が見られる背景として、60歳で定年を迎える企業等が多いことの影響によるものと推定されます。なお、「60～64歳」においても「週に35時間以上働いている」が54.3%であり、7割程度が仕事をしていると回答しています。

図表 304 現在の就労状況（年齢別）

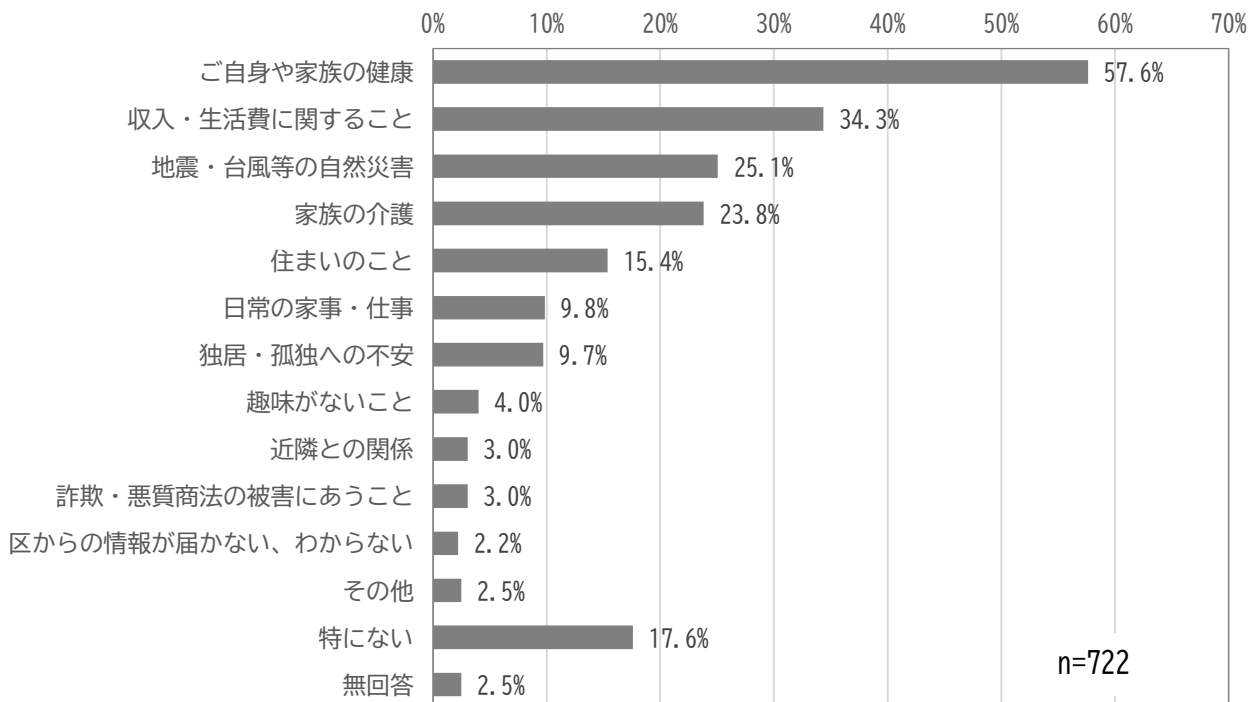


③日常生活における心配ごと【問15】

日常生活における心配ごとについては、「ご自身や家族の健康」が57.6%と最も多く、次いで「収入・生活費に関すること」が34.3%、「地震・台風等の自然災害」が25.1%となっています。

なお、「特にない」との回答は17.6%であり、8割程度の方が何らかの心配ごとを抱えているという回答結果が得られました。

図表 305 日常生活での心配ごと（複数回答）



家族構成別の回答を見ると、「1人暮らし」では、「ご自身や家族の健康」や「家族の介護」以外の項目について総じて他の家族構成よりも回答割合が高く、特に「独居・孤独への不安」や「住まいのこと」等については差が大きくなっています。

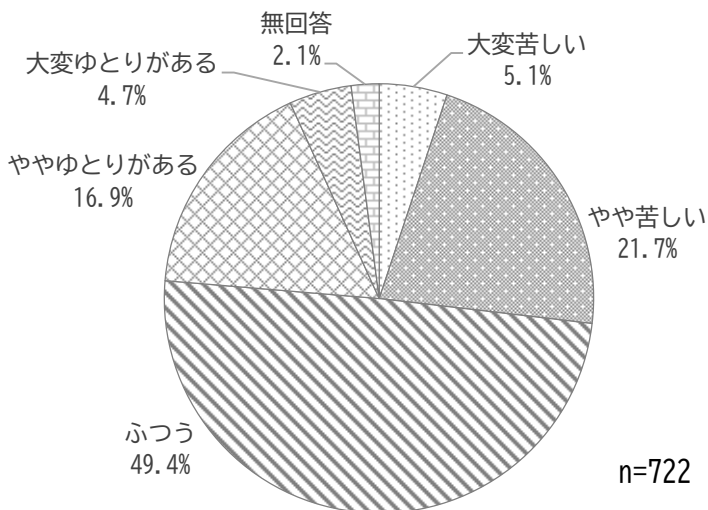
図表 306 日常生活での心配ごと（家族構成別）

	ご自身や家族の健康	家族の介護	地震・台風等の自然災害	独居・孤独への不安	住まいのこと	日常の家事・仕事	収入・生活費に関すること	近隣との関係	区からの情報が届かない、わからない	趣味がないこと	詐欺・悪質商法の被害にあうこと	その他	特になし	無回答
1人暮らし (n=138)	51.4%	20.3%	24.6%	26.8%	26.8%	13.0%	42.8%	2.9%	1.4%	5.1%	4.3%	2.2%	12.3%	2.2%
夫婦2人暮らし (n=196)	60.7%	19.4%	27.0%	5.6%	9.7%	6.1%	31.6%	2.6%	3.1%	1.5%	2.0%	3.6%	18.4%	2.0%
二世代の世帯 (未婚の子どもまたは 子ども夫婦と同居) (n=253)	55.7%	17.8%	24.1%	4.0%	13.8%	11.9%	29.6%	3.6%	2.4%	4.3%	4.0%	2.0%	22.5%	3.2%
二世代の同居 (親と同居) (n=64)	65.6%	60.9%	26.6%	14.1%	14.1%	4.7%	32.8%	3.1%	0.0%	4.7%	1.6%	3.1%	9.4%	0.0%
その他 (n=62)	61.3%	35.5%	21.0%	4.8%	16.1%	11.3%	45.2%	3.2%	3.2%	8.1%	1.6%	1.6%	17.7%	1.6%

④現在の暮らしの経済的状況【問16】

現在の暮らしについて、経済的に見てどのように感じているかたずねたところ、「ふつう」が49.4%となっていますが、「大変苦しい」が5.1%、「やや苦しい」が21.7%であり、経済的に苦しい状況にある方も少なくないことがわかります。

図表 307 現在の暮らしの経済的状況



男女別・年齢別・家族構成別の回答は図表 308 のとおりであり、「1人暮らし」では他の家族構成と比べ「やや苦しい」の割合が高くなっています。

図表 308 現在の暮らしの経済的状況（男女別・年齢別・家族構成別）

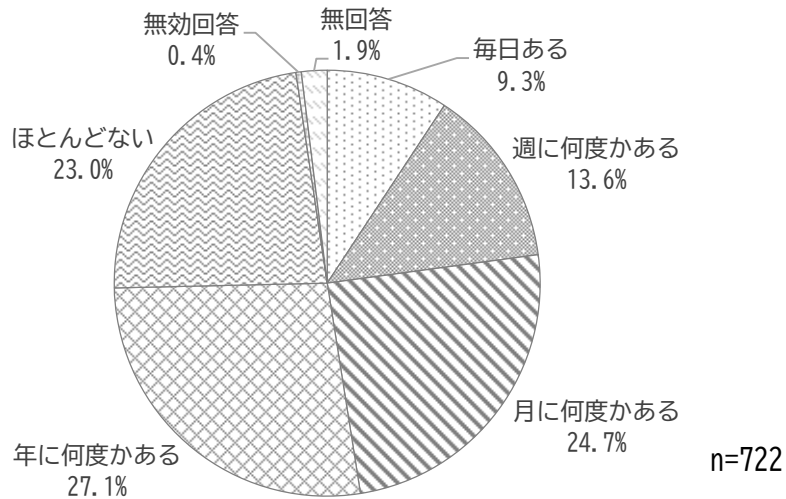
	大変苦しい	やや苦しい	ふつう	ややゆとりがある	大変ゆとりがある	無回答	無回答
男性 (n=359)	5.6%	19.8%	50.4%	16.2%	5.6%	2.5%	100.0%
女性 (n=363)	4.7%	23.7%	48.5%	17.6%	3.9%	1.7%	100.0%
55～59歳 (n=370)	5.9%	22.2%	51.4%	15.1%	3.5%	1.9%	100.0%
60～64歳 (n=352)	4.3%	21.3%	47.4%	18.8%	6.0%	2.3%	100.0%
1人暮らし (n=138)	5.1%	31.9%	42.8%	13.0%	5.1%	2.2%	100.0%
夫婦2人暮らし (n=196)	3.1%	16.8%	55.1%	17.3%	5.6%	2.0%	100.0%
二世代の世帯 (未婚の子どもまたは 子ども夫婦と同居) (n=253)	6.3%	20.2%	50.2%	16.6%	5.1%	1.6%	100.0%
二世代の同居 (親と同居) (n=64)	6.3%	20.3%	45.3%	25.0%	3.1%	0.0%	100.0%
その他 (n=62)	4.8%	22.6%	50.0%	17.7%	1.6%	3.2%	100.0%

(5) 地域とのつながりや近所づきあいに関する状況

①友人や知人と会う頻度【問17】

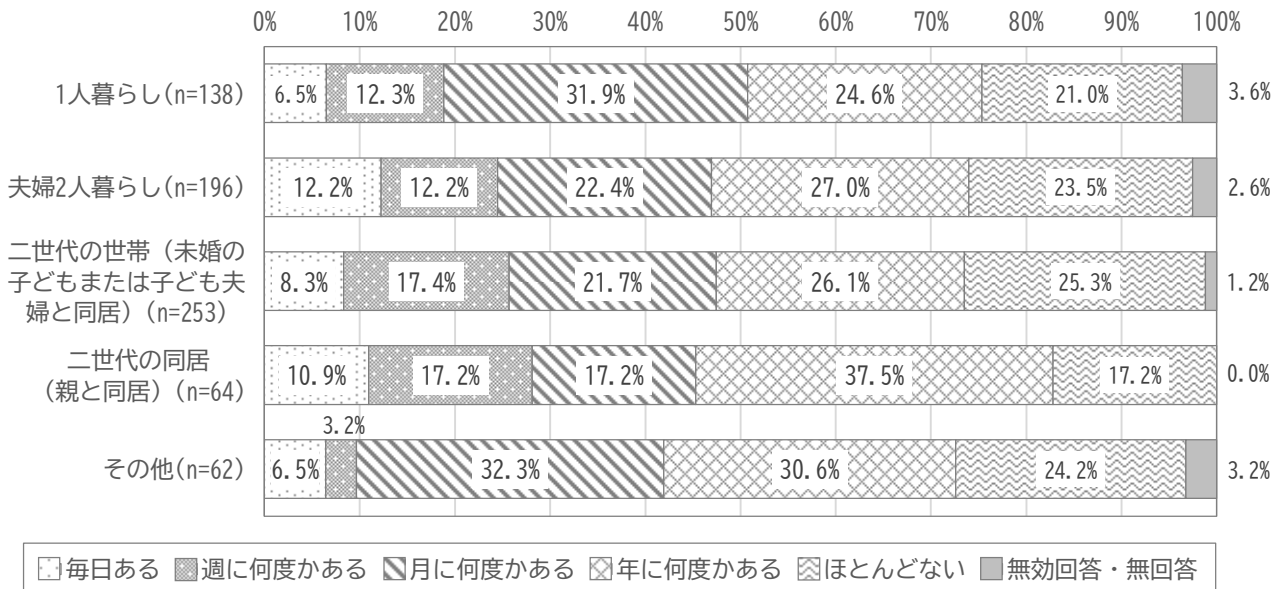
友人や知人と会う頻度がどれくらいであるかたずねたところ、「毎日ある」（9.3%）や「週に何度かある」（13.6%）といった、比較的高い頻度となっている回答も2割程度見られた一方、「年に何度かある」（27.1%）や「ほとんどない」（23.0%）といった、友人や知人と会う頻度が低いという回答が5割程度となっています。

図表 309 友人・知人と会う頻度



家族構成別の回答は以下のとおりであり、家族形態に関わらず、5割程度は「ほとんどない」、「年に何度かある」といった頻度の低い回答となっています。

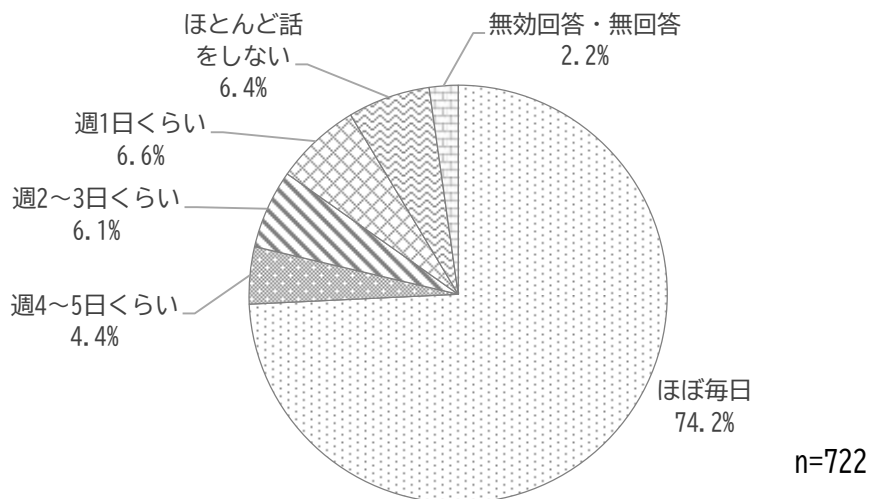
図表 310 友人・知人と会う頻度（家族構成別）



②家族・親族や知人と話をする頻度【問18】

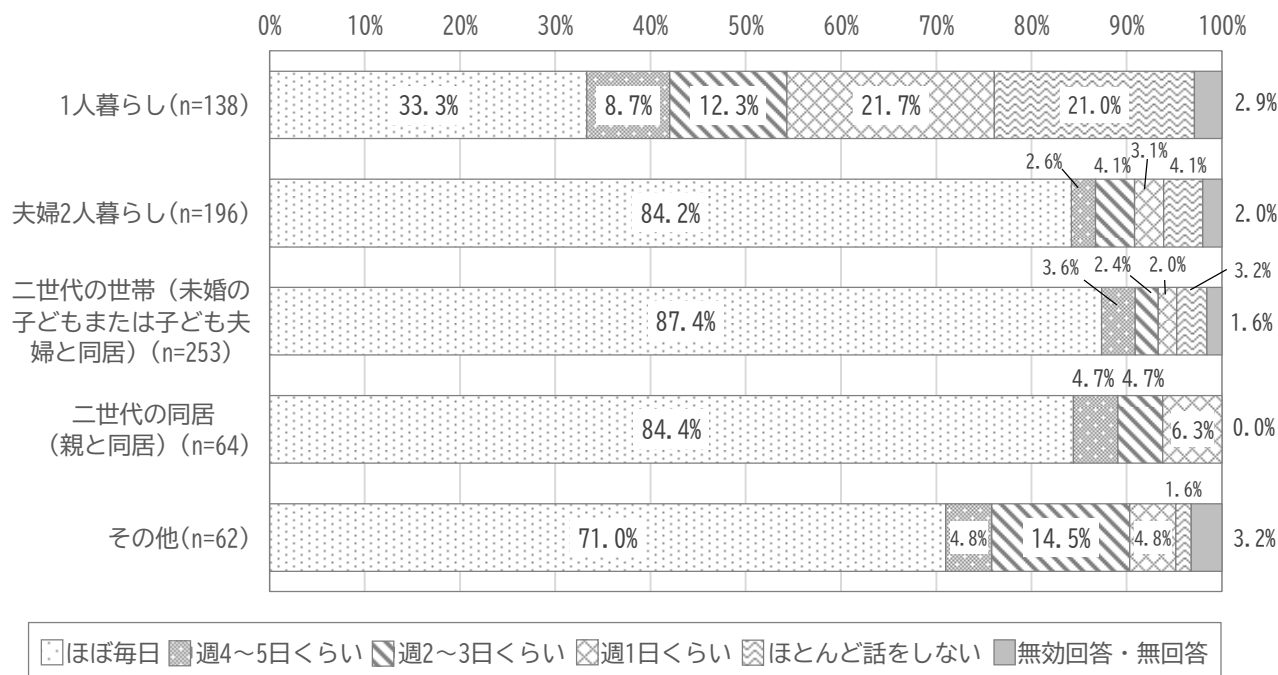
家族・親族や知人と話をする機会（電話・メール等での連絡を含む）がどれくらいの頻度であるかたずねたところ、「ほぼ毎日」が74.2%でした。一方、「ほとんど話をしない」は6.4%となっています。

図表 311 家族・親族や知人と話をする頻度



家族構成別の回答を見ると図表 312 のようになっており、同居家族等のいる方ではあまり差は見られませんが、「1人暮らし」の方については頻度が低い回答が多く、「週1日くらい」、「ほとんどない」との回答が合わせて42.7%となっています。

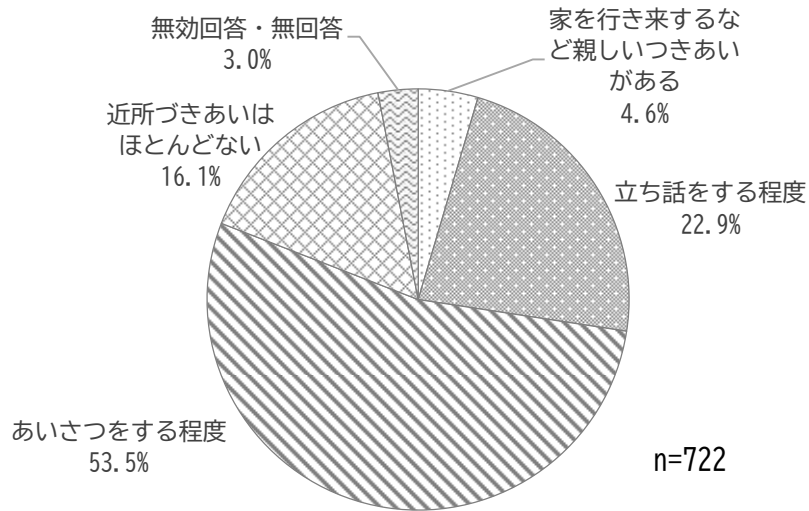
図表 312 家族・親族や知人と話をする頻度（家族構成別）



③近所づきあいの状況【問19】

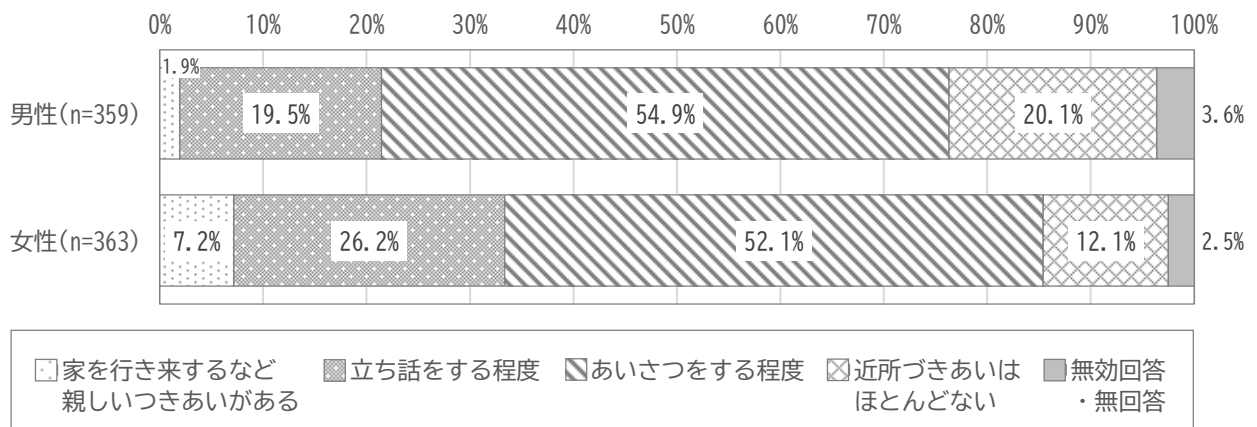
近所づきあいの状況については、「あいさつをする程度」が53.5%と最も多く、次いで「立ち話をする程度」が22.9%、「近所づきあいはほとんどない」が16.1%となっています。

図表 313 近所づきあいの状況



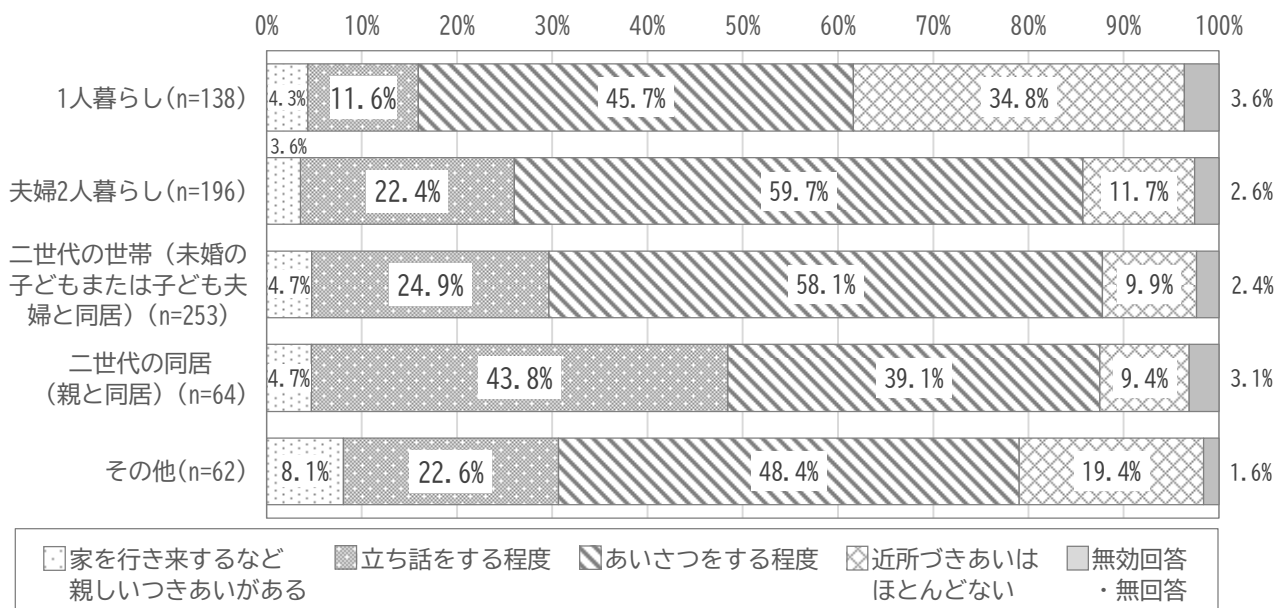
近所づきあいの程度について男女別の回答を見ると、女性のほうが「家を行き来するなど親しいつきあいがある」や「立ち話をする程度」の割合が高く、男性よりも近所づきあいの程度が高いことがうかがえます。

図表 314 近所づきあいの状況（男女別）



また、家族構成別の回答結果を見ると、「1人暮らし」の方で「近所づきあいはほとんどない」との回答が34.8%となっており、同居家族等のいる方と比べて20ポイント程度割合が高くなっています。

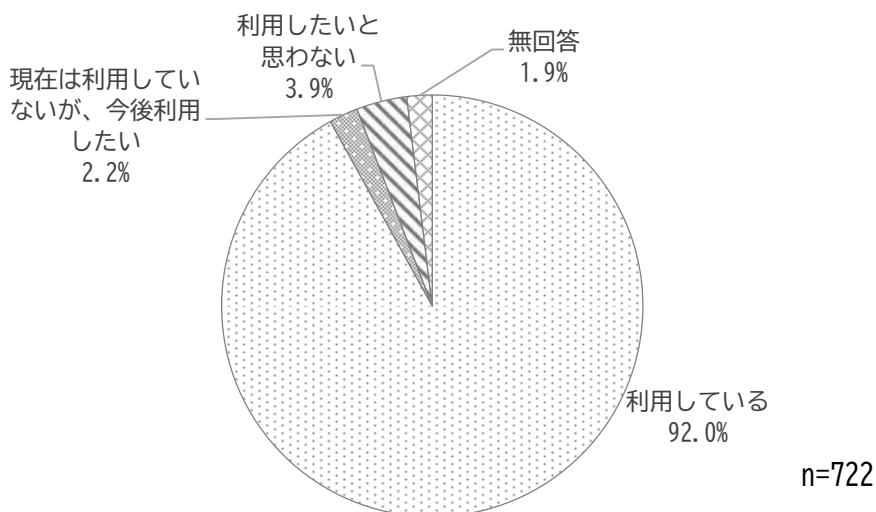
図表 315 近所づきあいの状況（家族構成別）



④日ごろの連絡におけるスマートフォン等の利用状況【問20】

日ごろの友人・知人や家族等との連絡において、スマートフォンやメール、SNS等を利用しているかどうかについてたずねたところ、「利用している」との回答が92.0%でした。

図表 316 スマートフォン・メール・SNS等の利用状況

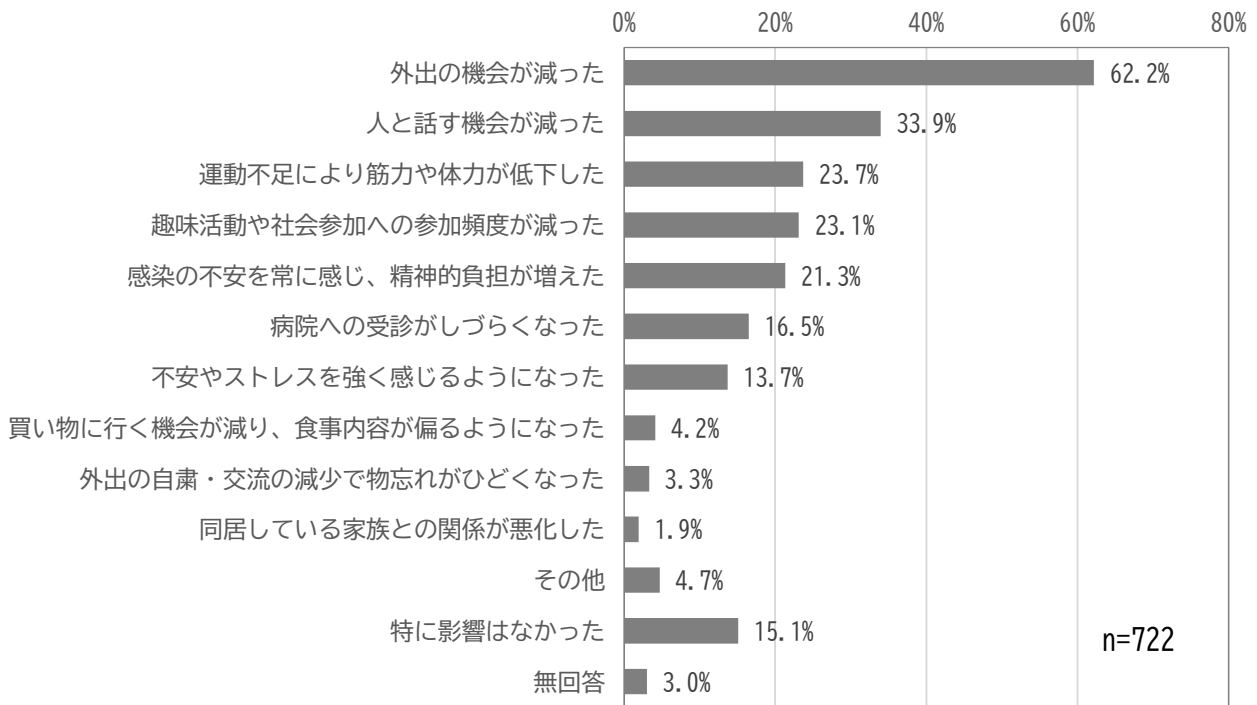


⑤新型コロナウイルス感染症の影響による生活の変化【問21】

新型コロナウイルス感染症に伴い、日常生活にどのような影響があったかについてたずねたところ、「外出の機会が減った」が62.2%と最も多く、次いで「人と話す機会が減った」が33.9%であり、他人との交流機会が減少するとの影響を受けた方が多いことがわかります。

また、「運動不足により筋力や体力が低下した」との回答が23.7%であり、心身の健康にも影響がでていることがうかがえます。

図表 317 新型コロナウイルス感染症の影響による生活の変化（複数回答）



⑥地域の活動等への参加状況【問22】

地域の活動等への参加状況について、「収入のある仕事」については「週4回以上」が54.4%である一方、その他の活動については総じて「参加していない」が総じて8～9割程度となっています。

なお、「スポーツ関係のグループやクラブ」や「趣味関係のグループ」については、参加している方の割合が比較的高いことがわかります。

図表 318 地域の活動等への参加状況

	ボランティア のグループ	スポーツ関係 のグループ やクラブ	趣味関係の グループ	学習・教養 サークル	介護予防の ための 通いの場	シニアクラブ	自治会 ・町会	収入のある 仕事
週4回以上	0.1%	2.2%	0.7%	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	54.4%
週2～3回	0.6%	6.2%	2.1%	0.3%	0.3%	0.0%	0.1%	7.1%
週1回	0.8%	5.4%	3.3%	1.5%	0.0%	0.0%	0.6%	0.4%
月1～3回	2.4%	2.9%	7.8%	3.0%	0.0%	0.1%	1.7%	0.8%
年に数回	2.8%	3.0%	6.4%	2.1%	0.3%	0.0%	8.7%	0.6%
参加して いない	88.8%	76.0%	75.1%	87.7%	94.5%	94.3%	84.1%	32.7%
無回答	4.6%	4.2%	4.6%	5.1%	5.0%	5.5%	4.8%	4.0%

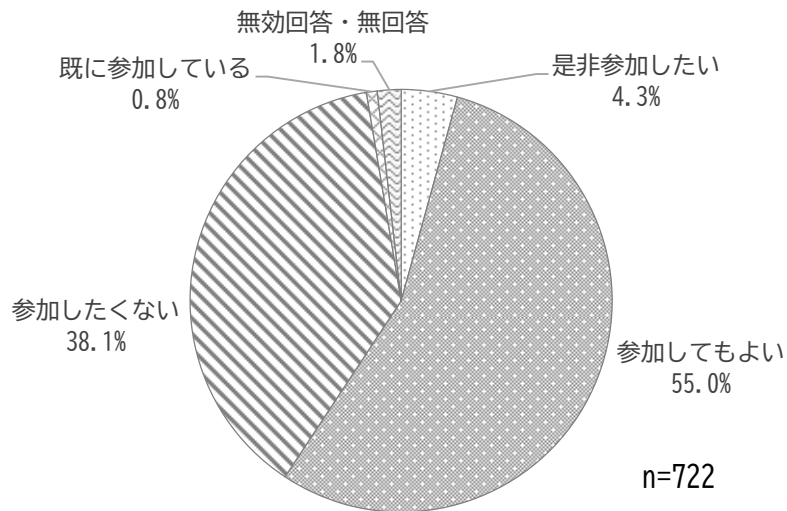
⑦いきいきした地域づくりへの参加意向【問23・問24】

地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきとした地域づくり活動を進めるとしたら、その活動に参加してみたいかどうかについてたずねたところ、以下のような結果が得られました。

活動への参加者としては「是非参加したい」が4.3%、「参加してもよい」が55.0%となっており、全体の59.3%が前向きな姿勢を示しています。

基本圏域別の回答を見ると、いずれの地域でも5割以上が「参加してもよい」と回答していますが、「糀谷・羽田地域」では「是非参加したい」・「参加してもよい」の割合が他の地域よりやや低く、「参加したくない」の割合がやや高くなっています。

図表 319 いきいきした地域づくりへの参加意向（活動の参加者として）



図表 320 いきいきした地域づくりへの参加意向（参加者として、基本圏域※別）

	是非参加したい	参加してもよい	参加したくない	既に参加している	無効回答・無回答
大森地域 (n=196)	3.6%	53.6%	39.3%	1.5%	2.0%
調布地域 (n=244)	5.7%	57.8%	33.2%	0.8%	2.5%
蒲田地域 (n=167)	3.6%	55.7%	39.5%	0.0%	1.2%
糀谷・羽田地域 (n=115)	3.5%	50.4%	44.3%	0.9%	0.9%

※第2号被保険者調査においては、日常生活圏域別の回答者数が少ないため、18の日常生活圏域別を4つの「基本圏域」にまとめて集計を行っています。日常生活圏域と基本圏域の対応関係は以下のとおりです。

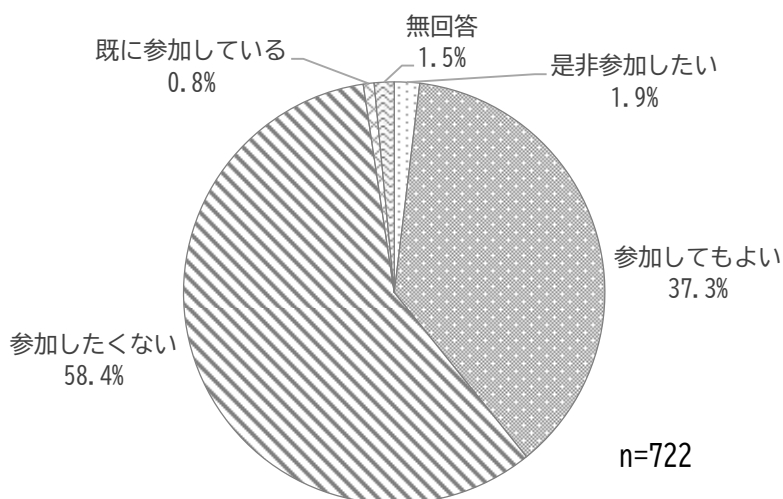
基本圏域	日常生活圏域
大森地域	大森西、入新井、馬込、池上、新井宿
調布地域	嶺町、田園調布、鶯の木、久が原、雪谷、千束
蒲田地域	六郷、矢口、蒲田西、蒲田東
糀谷・羽田地域	大森東、糀谷、羽田

一方、活動の「企画・運営（お世話役）」としての参加については、「参加したくない」が58.4%であり、消極的な回答が上回っています。

基本圏域別の回答を見ると、いずれの地域でも3～4割程度が「参加してもよい」と回答していますが、「調布地域」では「是非参加したい」・「参加してもよい」の割合が他の地域よりやや高くなっています。

なお、前回調査の結果と比較すると、ほぼ同様の結果となっています。

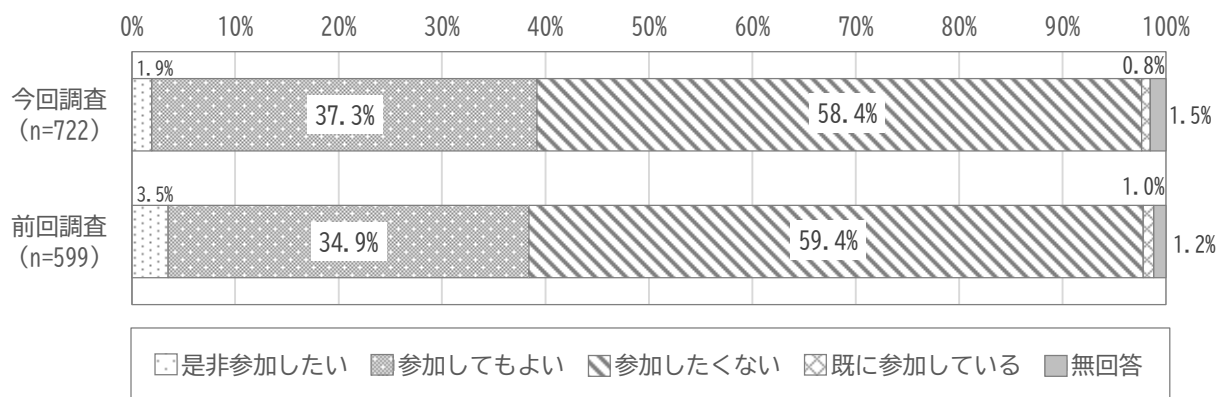
図表 321 いきいきした地域づくりへの参加意向（活動の企画・運営者として）



図表 322 地域づくり活動への参加意向（企画・運営（お世話役）として、基本圏域別）

	是非参加したい	参加してもよい	参加したくない	既に参加している	無効回答・無回答
大森地域 (n=196)	1.5%	35.7%	60.2%	1.0%	1.5%
調布地域 (n=244)	2.9%	39.8%	54.5%	1.2%	1.6%
蒲田地域 (n=167)	1.8%	37.7%	58.7%	0.0%	1.8%
糀谷・羽田地域 (n=115)	0.9%	33.9%	63.5%	0.9%	0.9%

図表 323 地域づくり活動への参加意向（企画・運営（お世話役）として、前回調査との比較）



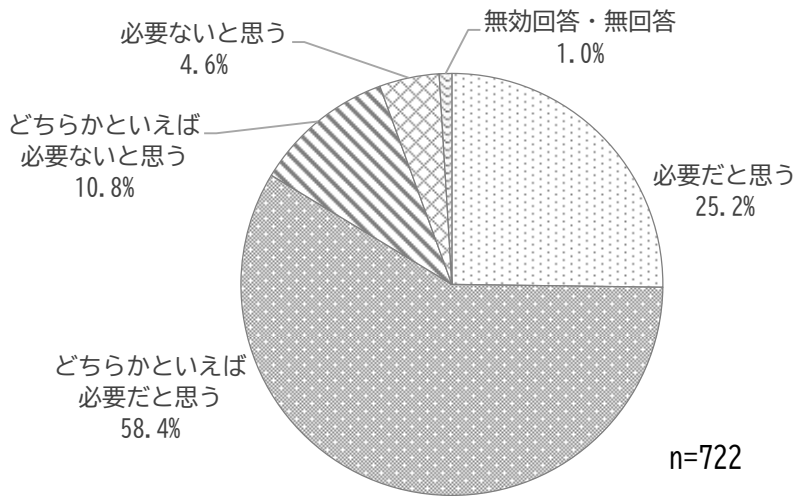
⑧地域のつながりの必要性に対する考え【問25・問26】

日々の暮らしの中で、地域のつながり（住民同士の助け合い・支え合い等）の必要性についてどのように感じているかたずねたところ、「必要だと思う」が25.2%、「どちらかといえば必要だと思う」が58.4%でした。

基本圏域別の回答を見ると、いずれの地域でも8～9割程度が「必要だと思う」・「どちらかといえば必要だと思う」と回答していますが、「調布地域」や「糀谷・羽田地域」では「必要だと思う」の割合が3割程度と、他の2地域よりも高くなっています。

前回調査の結果と比較すると、「必要だと思う」の割合が前回より11.7ポイント低下しており、「どちらかといえば必要ないと思う」の割合が4.3ポイント上昇しています。

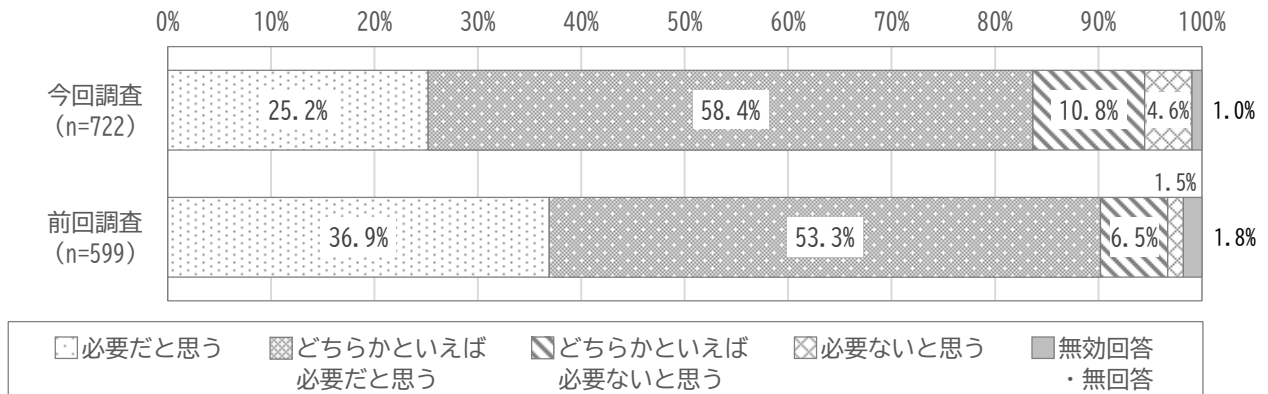
図表 324 地域のつながりの必要性に対する考え



図表 325 地域のつながりの必要性に対する考え（基本圏域別）

	必要だと思う	どちらかといえば必要だと思う	どちらかといえば必要ないと思う	必要ないと思う	無効回答・無回答
大森地域 (n=196)	18.9%	60.7%	14.8%	4.1%	1.5%
調布地域 (n=244)	30.3%	55.7%	8.2%	4.5%	1.2%
蒲田地域 (n=167)	22.8%	58.7%	12.6%	5.4%	0.6%
糀谷・羽田地域 (n=115)	28.7%	60.0%	7.0%	4.3%	0.0%

図表 326 地域のつながりの必要性に対する考え（前回調査との比較）

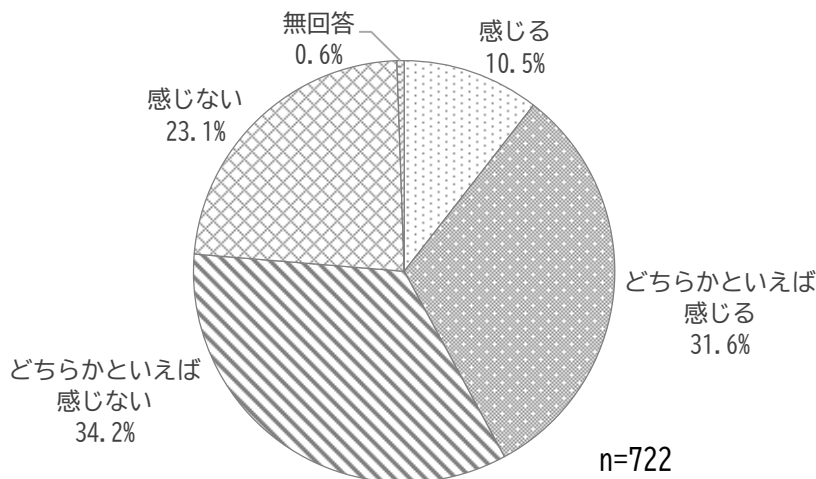


一方、地域のつながりを実際に感じるかどうかたずねたところ、「感じる」が10.5%、「どちらかといえば感じる」が31.6%であり、必要性を感じるという回答に比べ、実際に感じているとの回答割合は低く、理想と現実との乖離があることがうかがえます。

基本圏域別の回答を見ると、いずれの地域でも3～4割程度が「感じる」・「どちらかといえば感じる」と回答していますが、「蒲田地域」では他の地域と比べ割合が低く、「感じない」が29.9%となっています。

前回調査の結果と比較すると、図表329のようになっています。

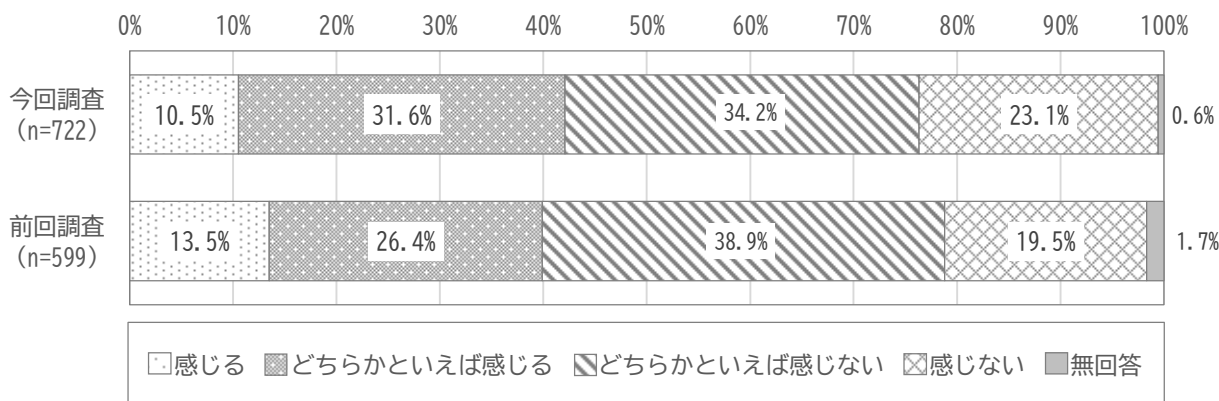
図表 327 地域のつながりを実感することの有無



図表 328 地域のつながりを実感することの有無（基本圏域別）

	感じる	どちらかといえば感じる	どちらかといえば感じない	感じない	無回答
大森地域 (n=196)	8.7%	31.6%	36.2%	23.0%	0.5%
調布地域 (n=244)	12.7%	35.2%	29.5%	21.7%	0.8%
蒲田地域 (n=167)	7.8%	25.1%	36.5%	29.9%	0.6%
糀谷・羽田地域 (n=115)	13.0%	33.0%	37.4%	16.5%	0.0%

図表 329 地域のつながりを実感することの有無（前回調査との比較）

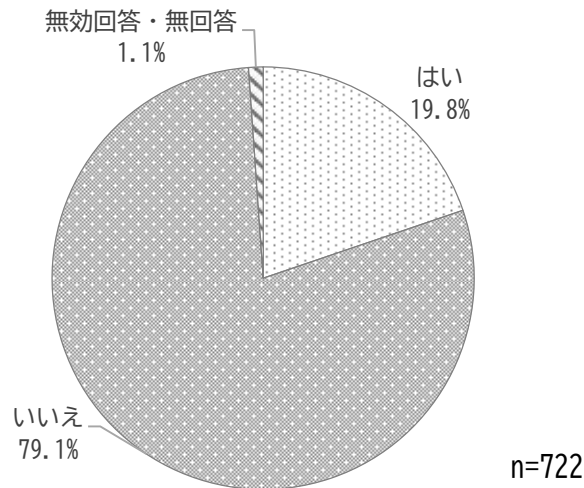


（6）認知症に関する状況

①自身や家族の認知症症状の有無【問 27】

自分自身に認知症の症状がある、あるいは家族に認知症の方がいるかどうかについてたずねたところ、「はい」が19.8%、「いいえ」が79.1%でした。

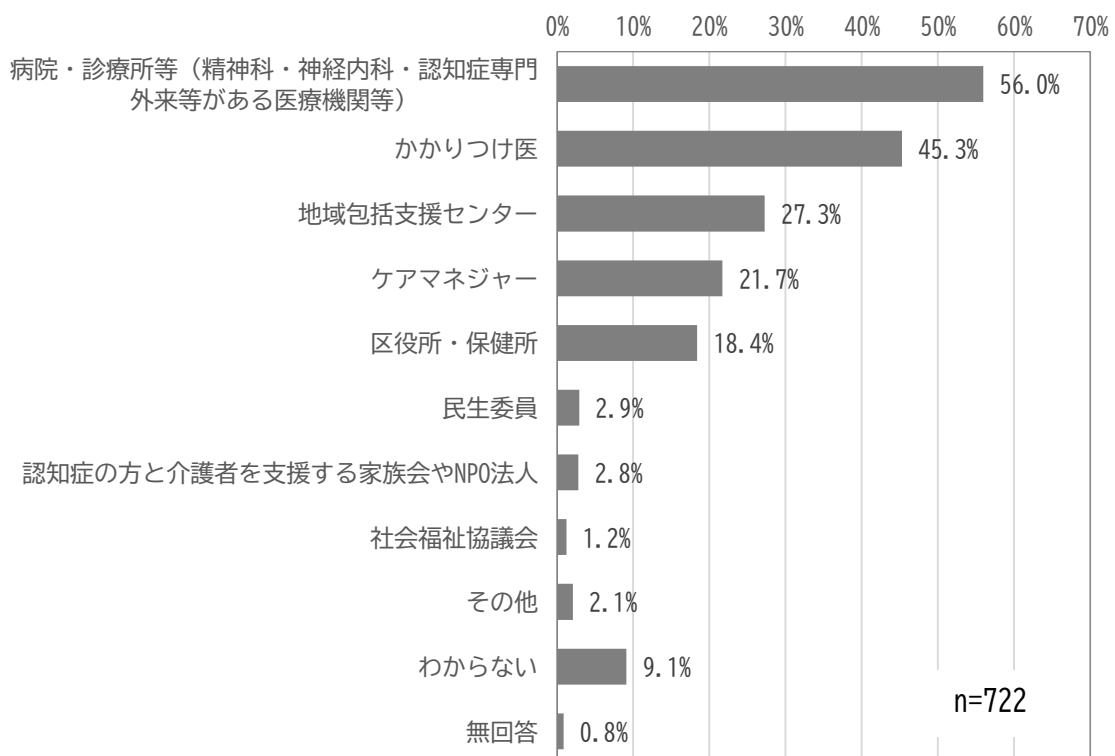
図表 330 自分自身に認知症の症状がある、または家族に認知症の症状がある人がいるかどうか



②認知症に関する相談先【問 28】

自分自身や家族に認知症の心配が出た際に、どこに相談しようと思うかたずねたところ、「病院・診療所等」が56.0%と最も多く、次いで「かかりつけ医」が45.3%、「地域包括支援センター」が27.3%となっています。

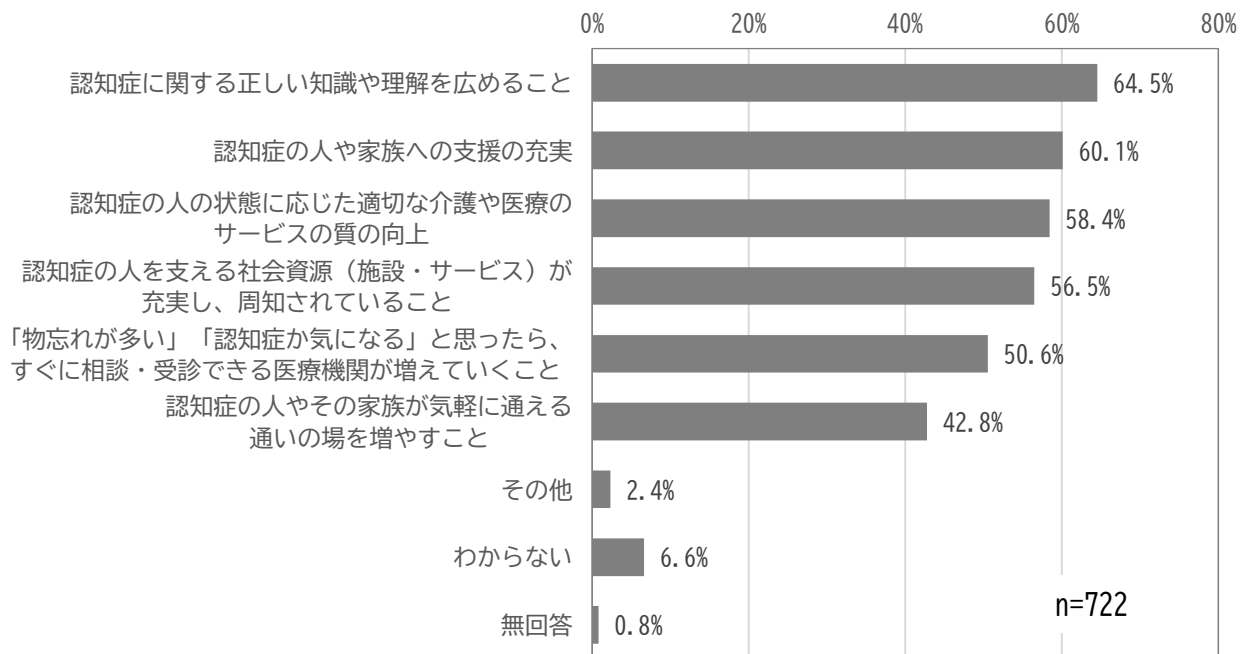
図表 331 自分自身や家族に認知症の心配が出た際に、相談しようと思う機関等（複数回答）



③認知症に優しい地域づくりの実現に向けて必要な取組や支援【問29】

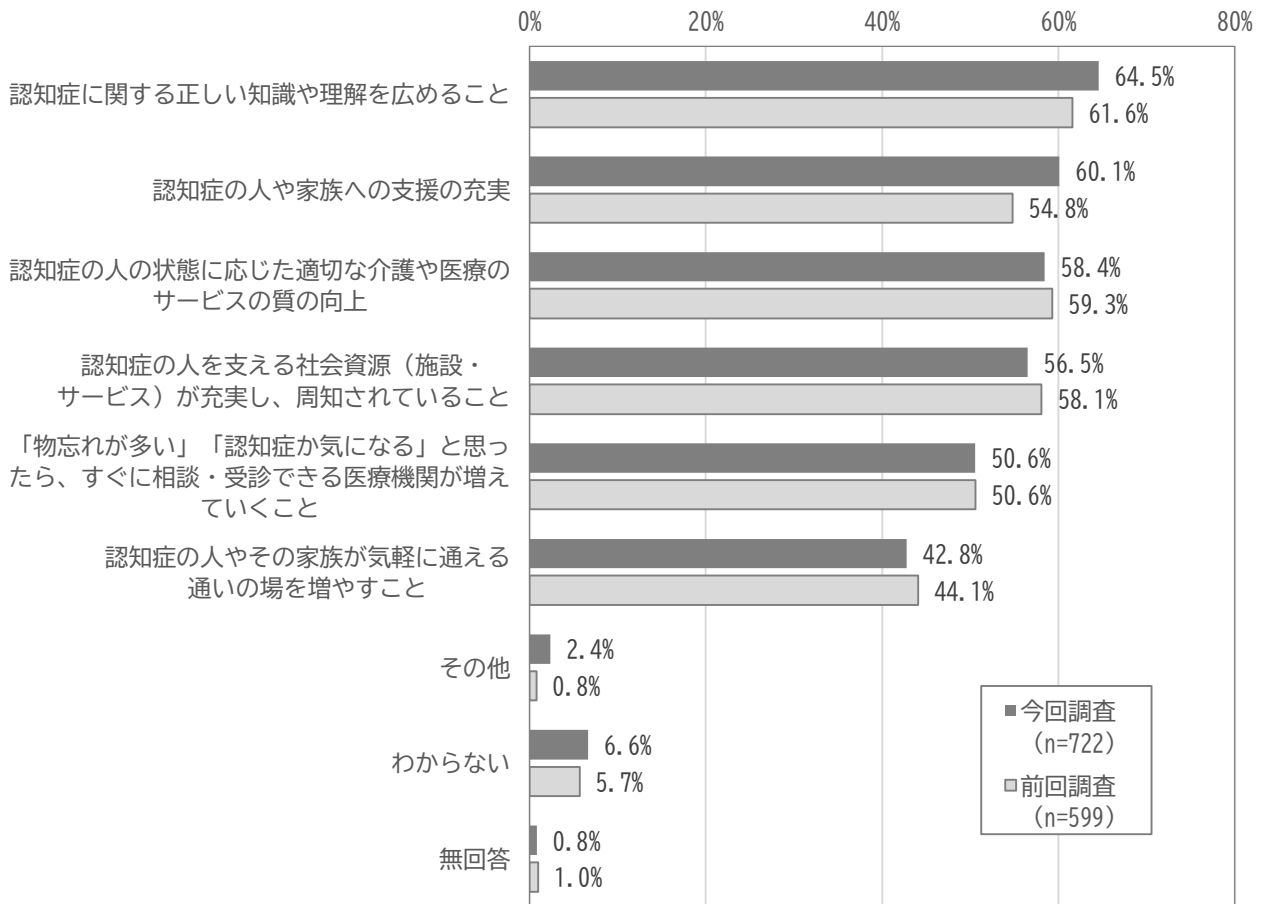
認知症の人と共に生きる、優しい地域づくりを実現するために必要な取組や支援についてたずねたところ、「認知症に対する正しい知識や理解を広めること」が64.5%と最も多く、次いで「認知症の人や家族への支援の充実」が60.1%、「認知症の人の状態に応じた適切な介護や医療のサービスの質の向上」が58.4%となっています。

図表 332 認知症に優しい地域づくりの実現に向けて必要な取組や支援（複数回答）



前回調査の結果と比較すると、概ね同様の結果となっています。

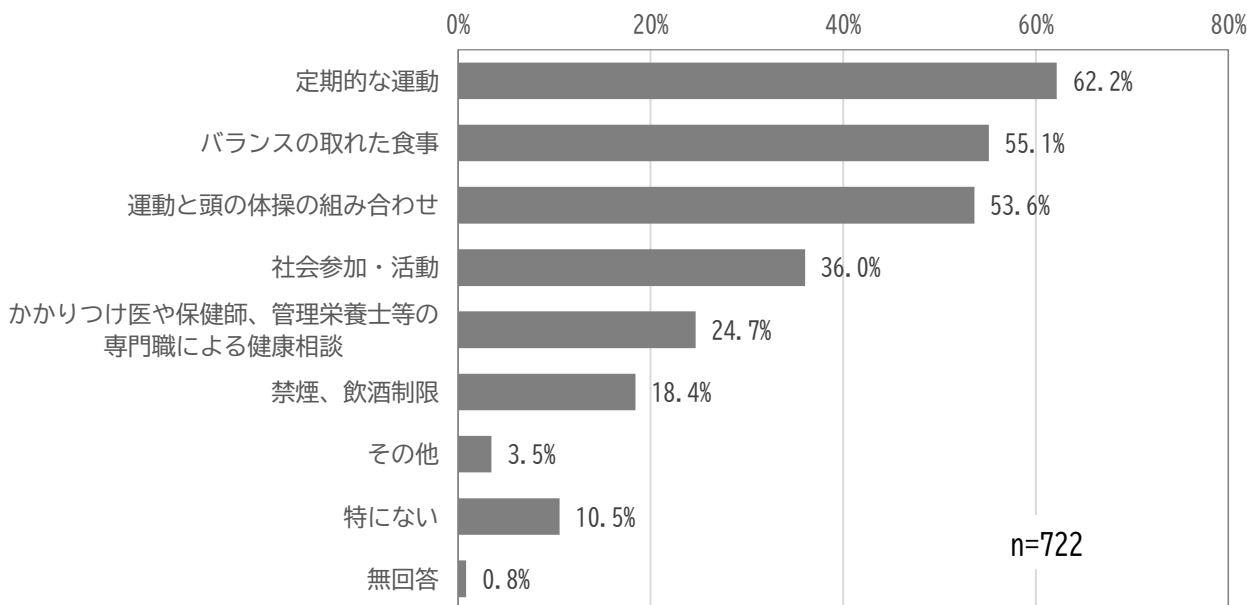
図表 333 認知症に優しい地域づくりの実現に向けて必要な取組や支援（前回調査との比較）



④認知症の予防に向けて取り組んでいきたいこと【問30】

認知症の予防に向けて取り組んでいきたいと思うことについてたずねたところ、「定期的な運動」が62.2%と最も多く、次いで「バランスの取れた食事」が55.1%、「運動と頭の体操の組み合わせ」が53.6%となっています。

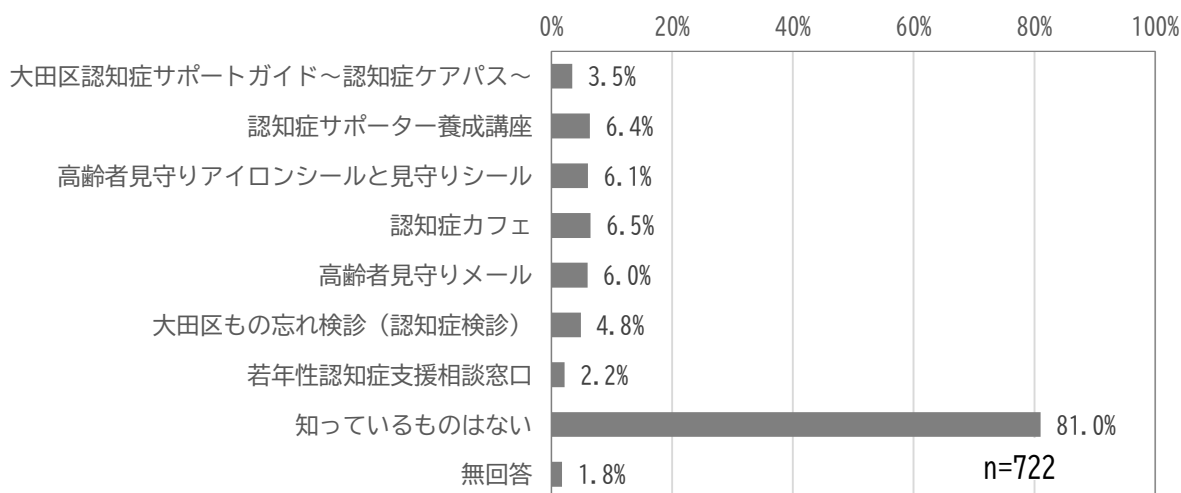
図表 334 認知症の予防に向けて取り組んでいきたいと思うこと（複数回答）



⑤区の認知症施策の認知度【問31】

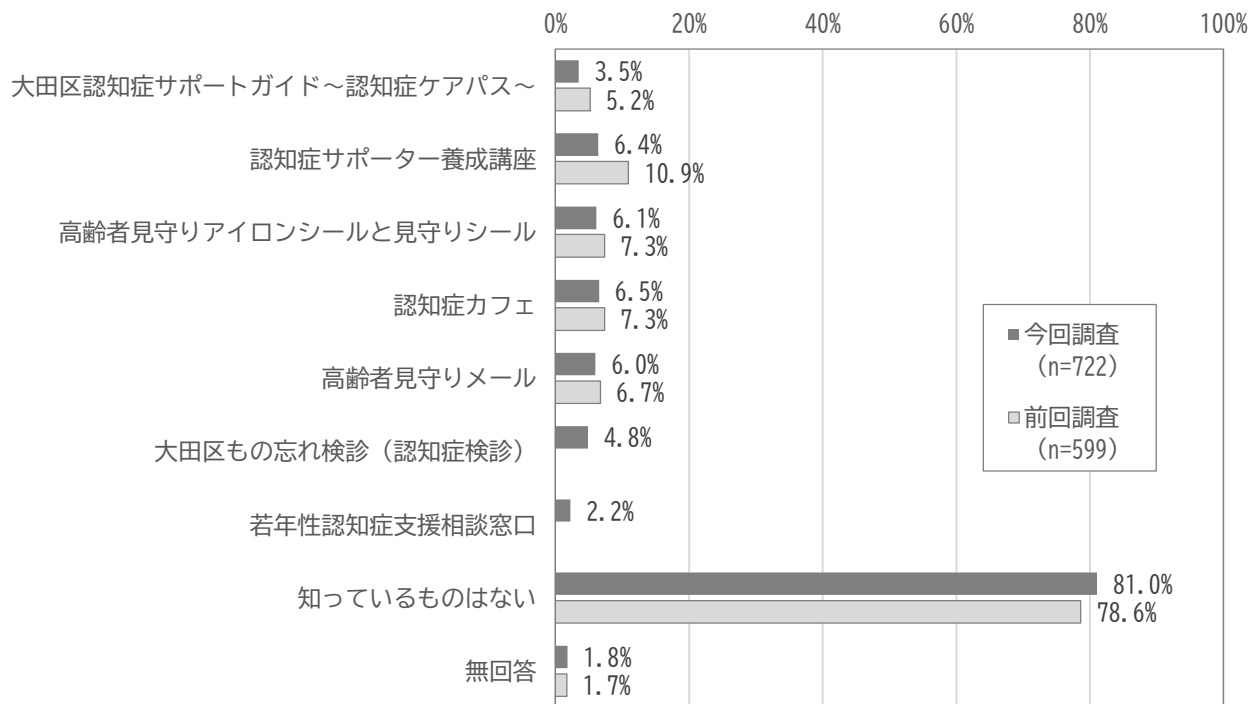
区が実施している認知症施策のうち、知っているものについてたずねたところ、いずれの施策についても「知っている」との回答は1割未満であり、「知っているものはない」との回答が81.0%でした。

図表 335 区の認知症施策の認知度（複数回答）



前回調査と比較すると、いずれの項目についてもほぼ同様の結果となっています。

図表 336 区の認知症施策の認知度（前回調査との比較）

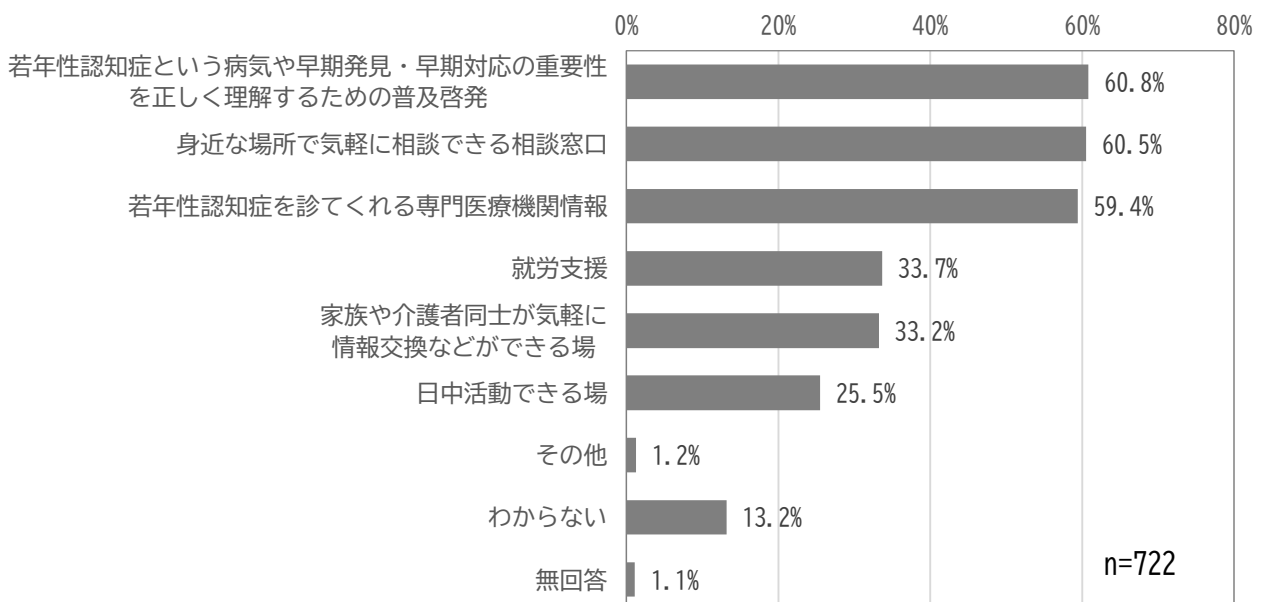


※「大田区もの忘れ検診（認知症検診）」・「若年性認知症支援相談窓口」については、前回調査には選択肢が設けられていないため、今回の調査結果のみ記載しています。

⑥若年性認知症への支援として必要なこと【問 32】

若年性認知症（65歳未満で発症する認知症）の支援としてどのようなことが必要だと思うかについてたずねたところ、「若年性認知症という病気や早期発見・早期対応の重要性を正しく理解するための普及啓発」が60.8%、「身近な場所で気軽に相談できる相談窓口」が60.5%、「若年性認知症を診てくれる専門医療機関情報」が59.4%であり、情報発信や相談対応のニーズが高いことがうかがえます。

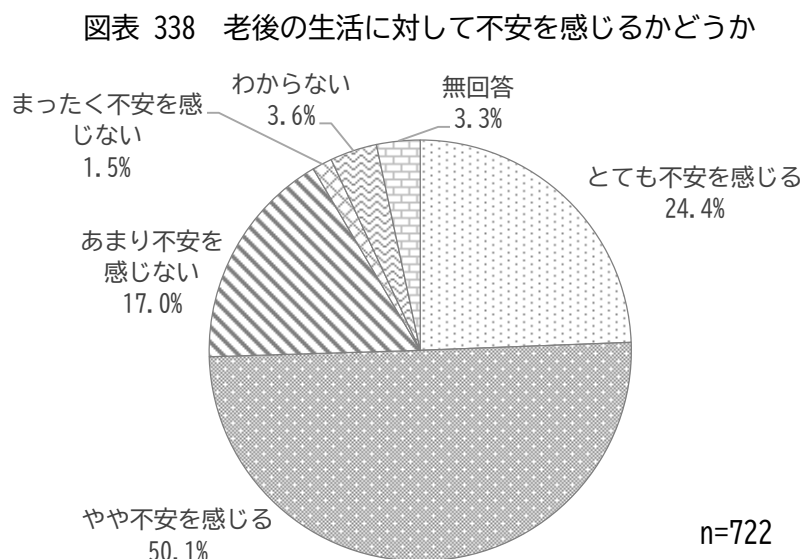
図表 337 若年性認知症への支援として必要なこと（複数回答）



(7) 今後の生活に対する希望や支援ニーズ

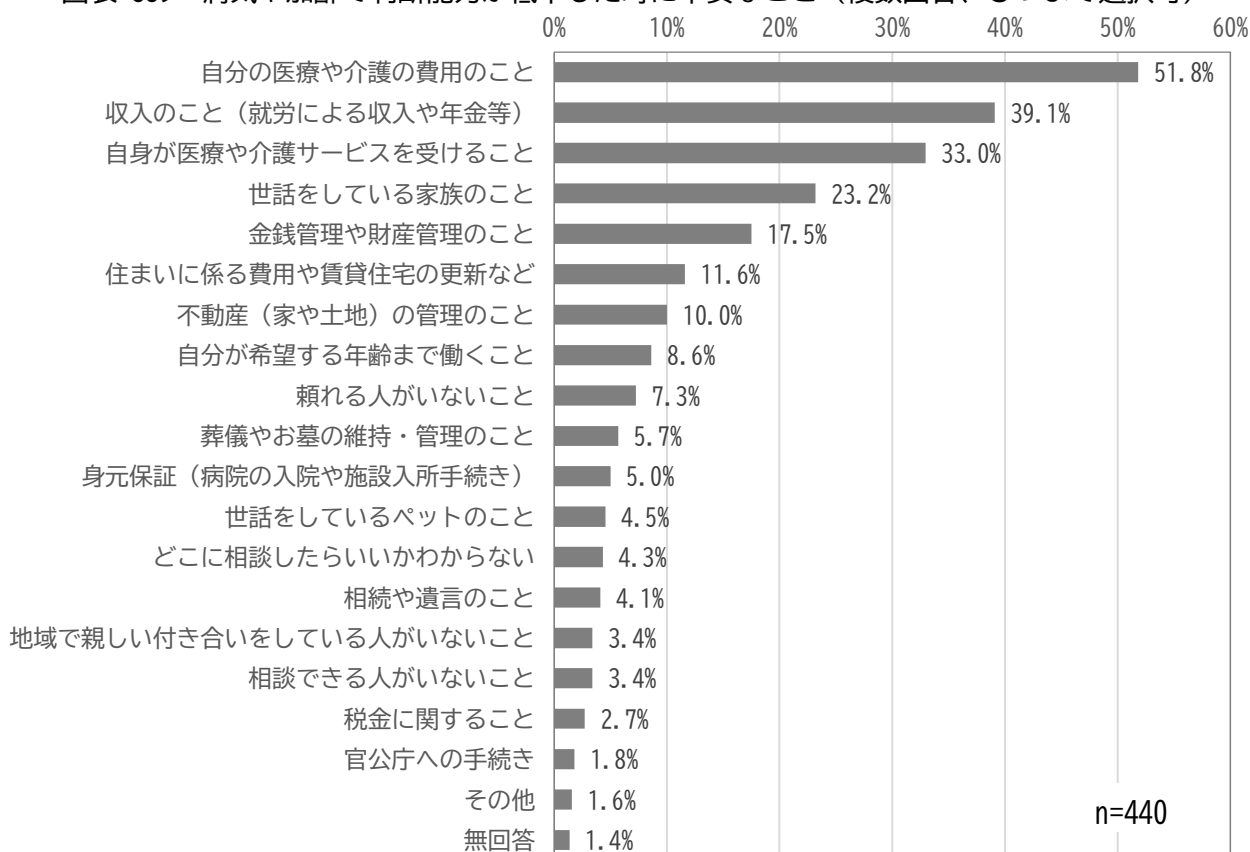
①老後の生活に向けて不安なこと【問33・問34】

老後の生活に対して不安を感じるかどうかたずねたところ、「とても不安を感じる」が24.4%、「やや不安を感じる」が50.1%であり、合わせて74.5%が「不安を感じる」と回答しています。



「不安を感じる」と回答した方に、病気や加齢により判断能力が低下したときに、安心して暮らすために心配なことをたずねたところ、「自分の医療や介護の費用のこと」が51.8%と最も多く、次いで「収入のこと」が39.1%であり、特に経済的なことに不安を感じている方が多いことがうかがえます。

図表 339 病気や加齢で判断能力が低下した時に不安なこと（複数回答、3つまで選択可）

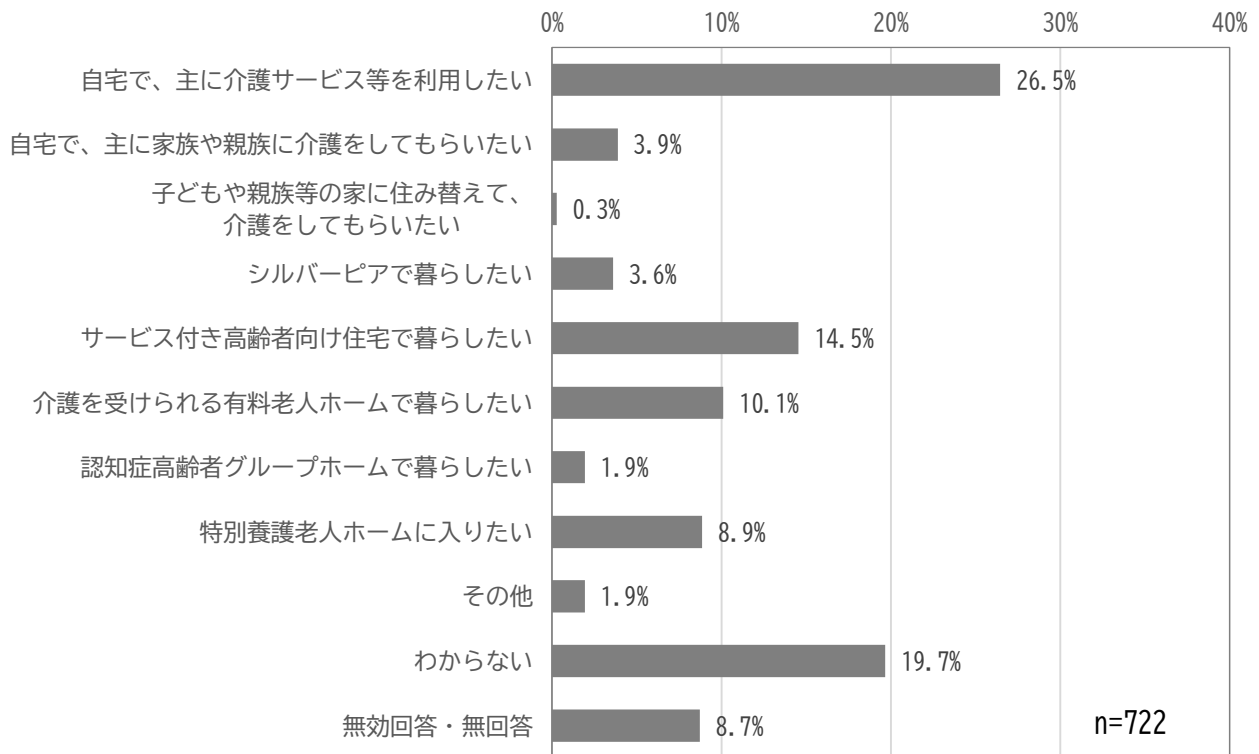


②介護が必要になった場合に希望する暮らし方【問35】

介護が必要になった場合にどのような暮らし方を希望するかについて、「自宅で、主に介護サービス等を利用したい」が26.5%、「自宅で、主に家族や親族に介護をしてもらいたい」が3.9%であり、合わせて30.4%が自宅での生活を継続したいと回答しています。

自宅以外で多かった回答としては、「サービス付き高齢者向け住宅で暮らしたい」が14.5%、「介護を受けられる有料老人ホームで暮らしたい」が10.1%となっています。

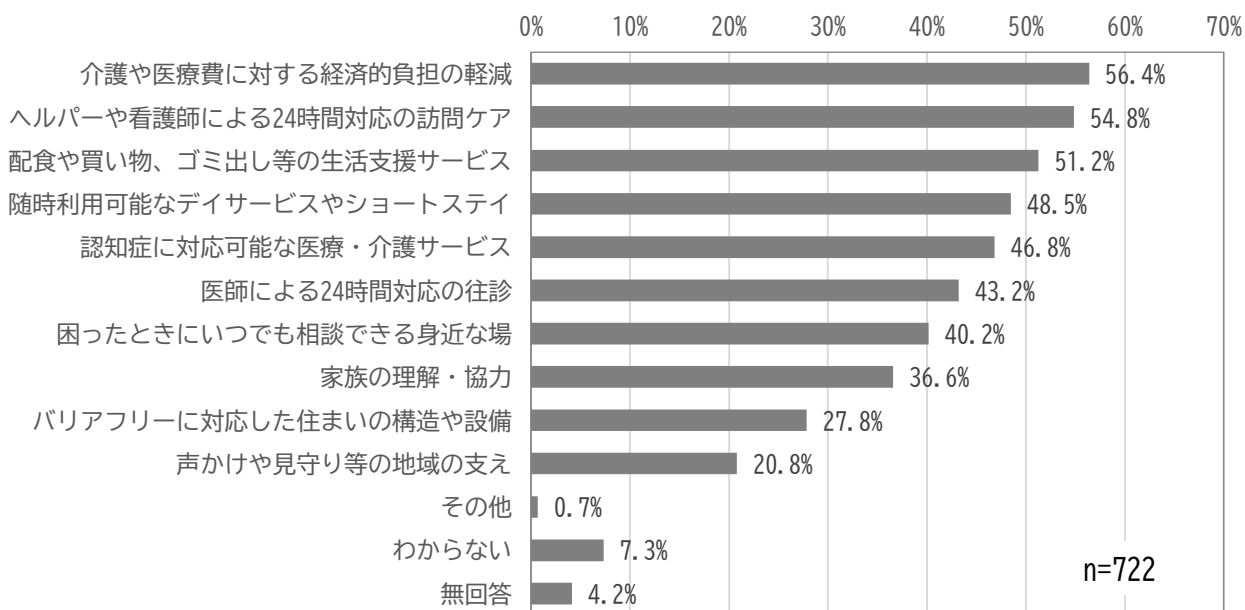
図表 340 万が一介護が必要になった場合、どのような暮らし方を希望するか



③介護が必要になっても在宅生活を継続するために必要な支援やサービス【問36】

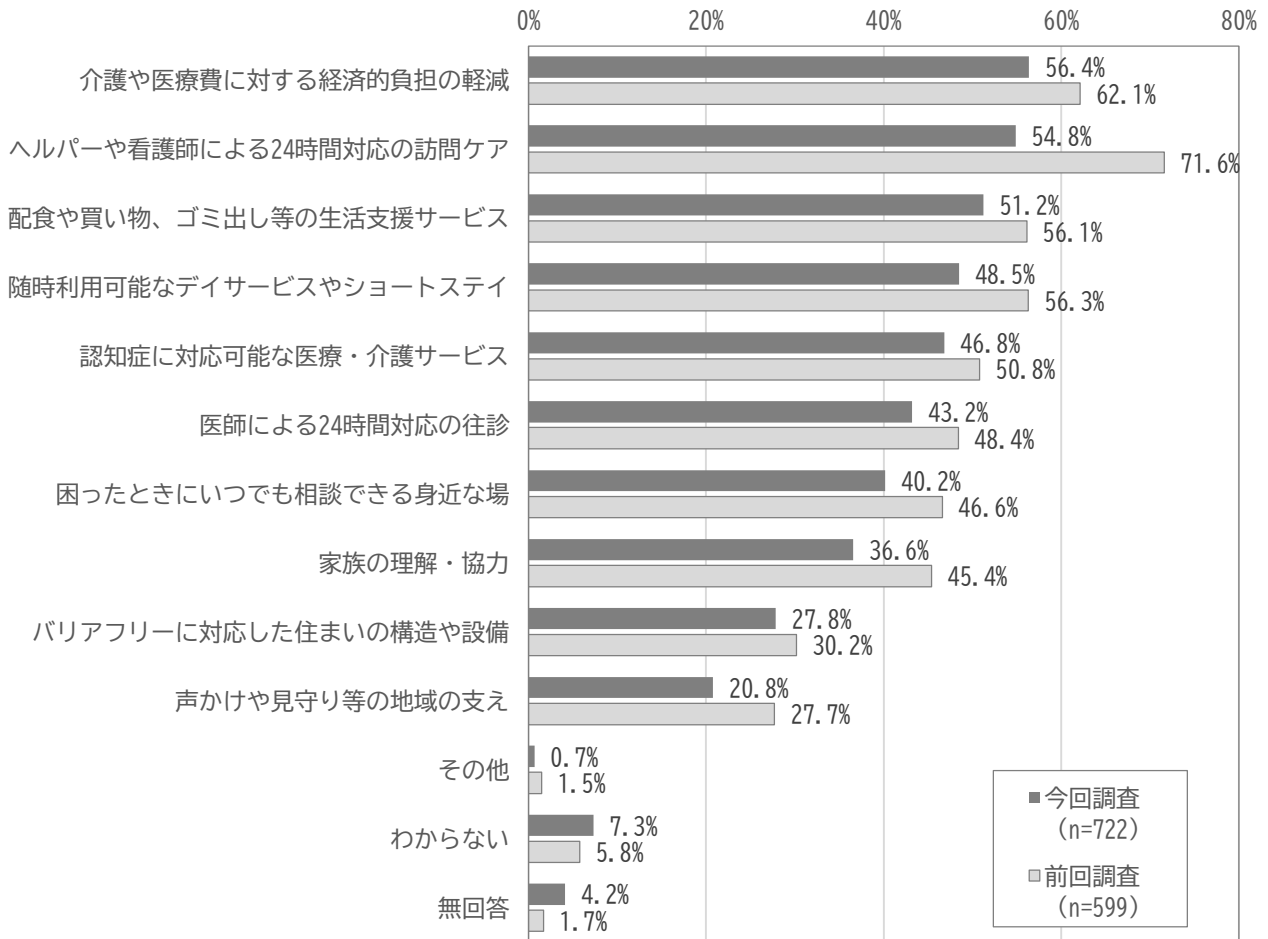
介護が必要になっても在宅生活を継続するために必要な支援やサービスについてたずねたところ、「介護や医療費に対する経済的負担の軽減」が56.4%と最も多く、次いで「ヘルパーや看護師による24時間対応の訪問ケア」が54.8%、「配食や買い物、ゴミ出し等の生活支援サービス」が51.2%となっています。

図表 341 介護が必要になっても在宅で安心して暮らし続けるために望ましい支援・サービス（複数回答）



前回調査の結果と比較すると、「わからない」以外の項目で前回調査よりも回答割合が低く、特に「ヘルパーや看護師による24時間対応の訪問ケア」では16.8ポイント低くなっています。

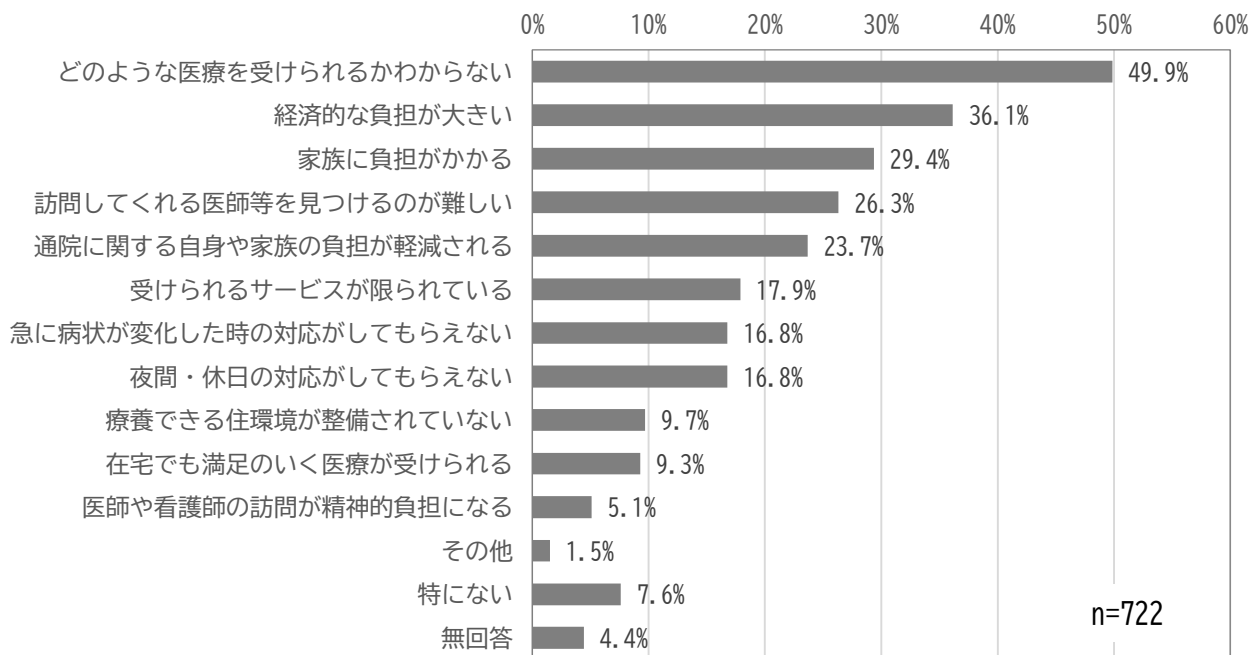
図表 342 介護が必要になっても在宅で安心して暮らし続けるために
望ましい支援・サービス（前回調査との比較）



④在宅医療サービスに対する考え【問37】

在宅医療サービスに対する考えについてたずねたところ、「どのような医療を受けられるかわからない」が49.9%と最も多く、次いで「経済的な負担が大きい」が36.1%、「家族に負担がかかる」が29.4%となっています。なお、「通院に関する自身や家族の負担が軽減される」、「在宅でも満足のいく医療を受けられる」といった、肯定的な回答も1～2割程度見られます。

図表 343 在宅医療サービスに対する考え（複数回答）

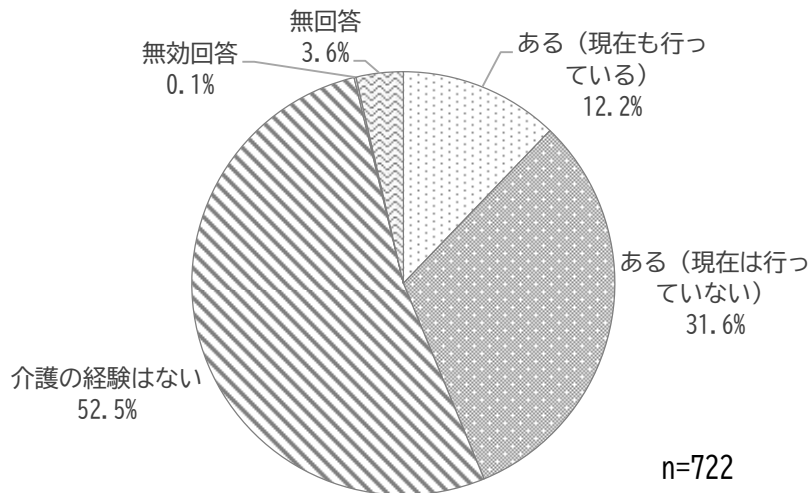


(8) 家族等の介護に関する状況

①家族や親戚等の介護を行った経験の有無【問 38】

家族や親戚等の介護を行った経験の有無については、「ある（現在も行っている）」が12.2%、「ある（現在は行っていない）」が31.6%となっています。

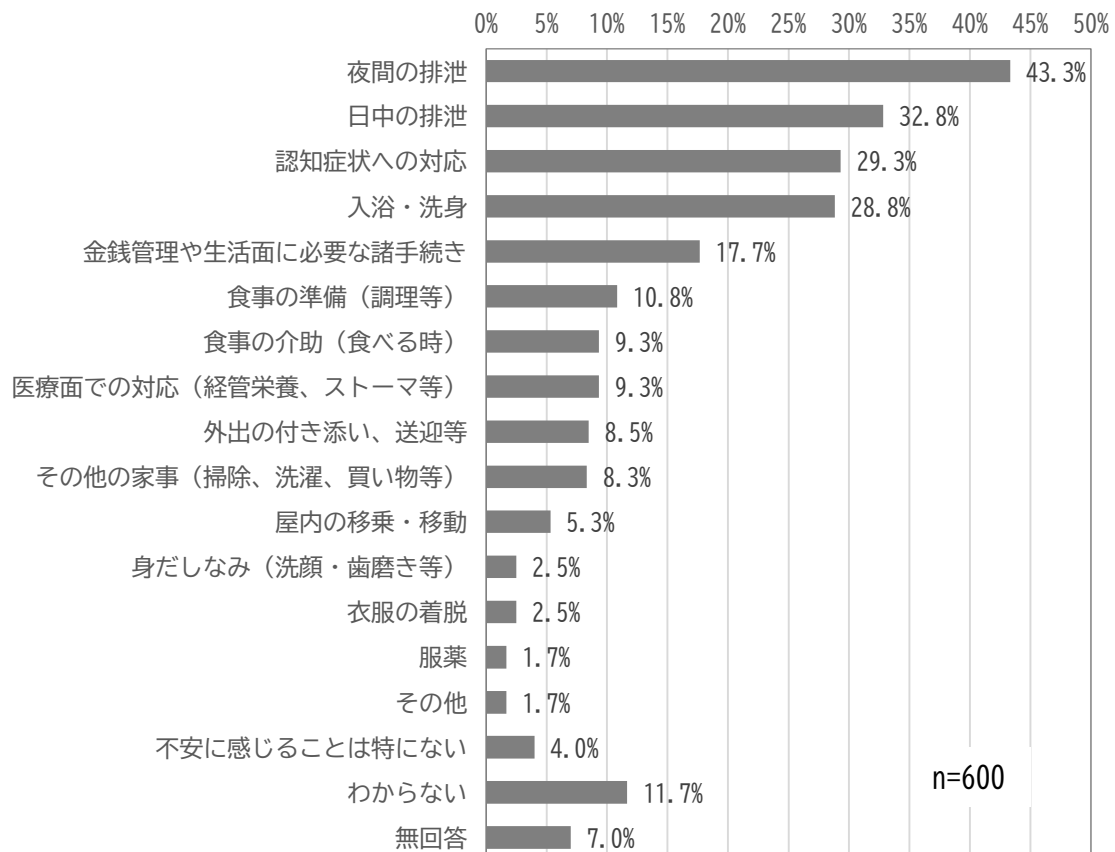
図表 344 家族や親戚等の介護を行った経験の有無



②不安を感じる介護の内容【問 39】

不安を感じる介護の内容については、「夜間の排泄」が43.3%、「日中の排泄」が32.8%、「入浴・洗身」が28.8%となっており、総じて身体介護に関することが多く挙げられています。

図表 345 不安を感じる介護の内容（複数回答、3つまで選択可）

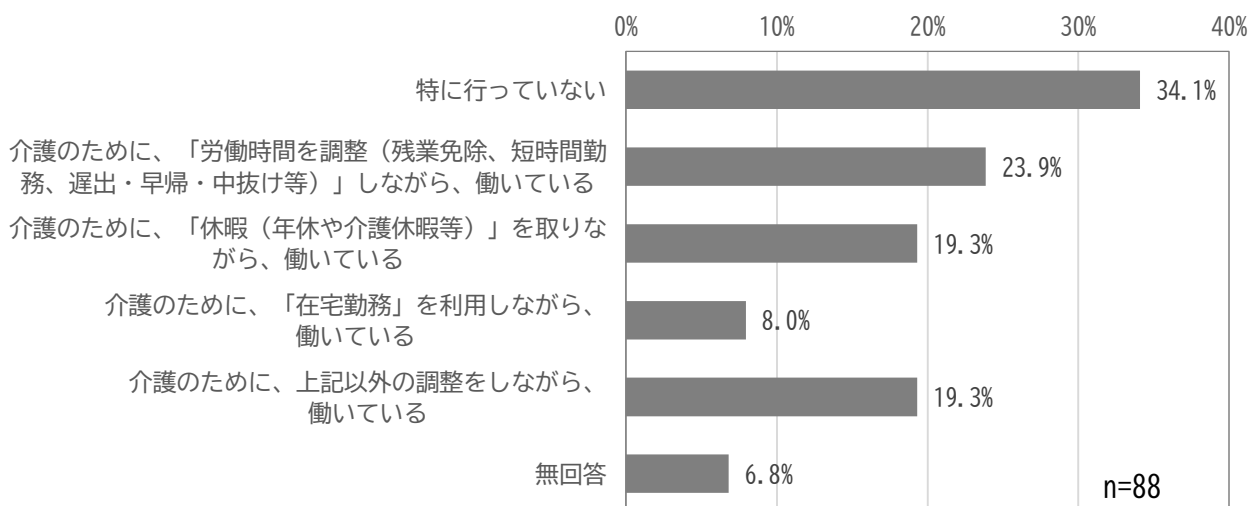


③介護と仕事の両立に向けた、働き方の調整等に関する状況【問40】

問38において、介護の経験について「ある（現在も行っている）」と回答した方に対し、介護のために働き方の調整を行っているかどうかたずねたところ、「特に行っていない」が34.1%でした。

何らかの調整を行っているとの回答では、「労働時間を調整しながら働いている」が23.9%と最も多く、次いで「休暇（年休や介護休暇等）を取りながら働いている」が19.3%となっています。

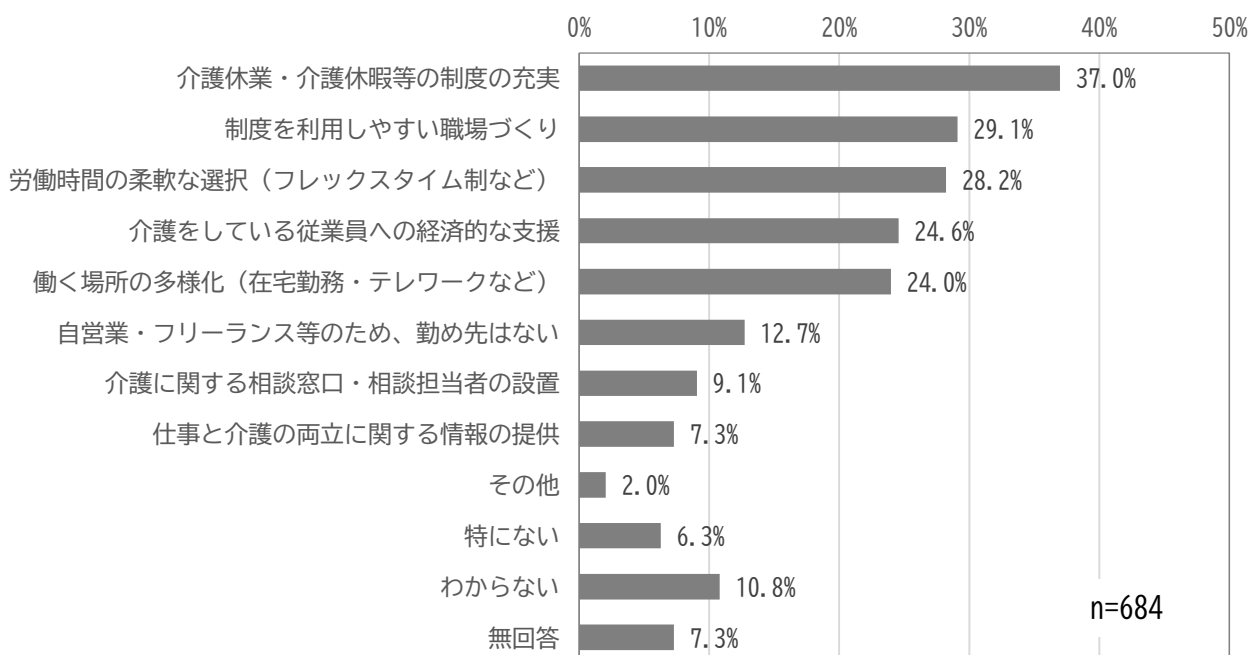
図表 346 介護と仕事の両立に向けた、働き方の調整等に関する状況（複数回答）



④介護と仕事の両立に向けて効果があると考えられる支援【問41】

介護と仕事の両立について、勤め先からどのような支援があれば効果があると思うかたずねたところ、「介護休業・休暇等の制度の充実」が37.0%と最も多く、次いで「制度を利用しやすい職場づくり」が29.1%、「労働時間の柔軟な選択」が28.2%となっています。

図表 347 仕事と介護の両立に向けて効果があると考えられる支援（複数回答、3つまで選択可）



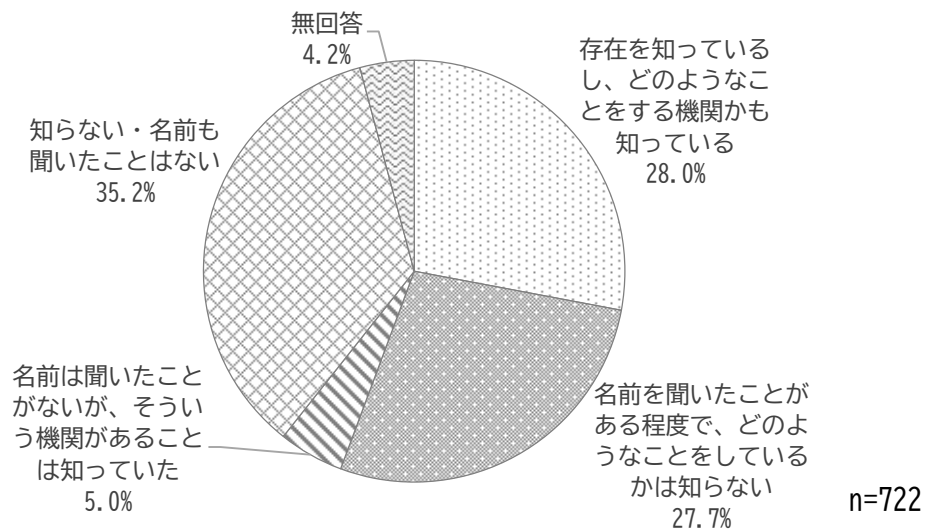
(9) 区の取組に対する認知度や意見

①地域包括支援センターの認知度【問 42】

地域包括支援センターについて知っているかどうかたずねたところ、「存在を知っているし、どのようなことをする機関かも知っている」が28.0%、「名前を聞いたことがある程度で、どのようなことをしているかは知らない」が27.7%でした。一方、「知らない・名前も聞いたことはない」が35.2%となっています。

基本圏域別の回答を見ると、いずれの地域でも「存在を知っているし、どのようなことをする機関かも知っている」が3割程度であり、「知らない・名前も聞いたことはない」と同等またはこれを下回っています。

図表 348 地域包括支援センターの認知度

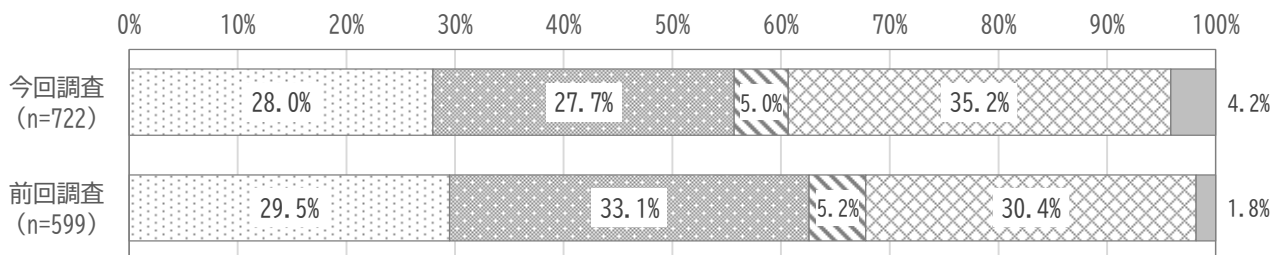


図表 349 地域包括支援センターの認知度（基本圏域別）

	存在を知っているし、どのようなことをする機関かも知っている	名前を聞いたことがある程度で、どのようなことをしているかは知らない	名前を聞いたことがないが、そういう機関があることは知っていた	知らない・名前も聞いたことはない	無回答
大森地域 (n=196)	25.0%	30.1%	4.1%	39.3%	1.5%
調布地域 (n=244)	27.0%	25.8%	7.0%	35.7%	4.5%
蒲田地域 (n=167)	32.9%	25.7%	4.8%	32.9%	3.6%
糀谷・羽田地域 (n=115)	27.8%	30.4%	2.6%	30.4%	8.7%

前回調査の結果と比較すると、概ね同様の結果となっていますが、「知らない・名前も聞いたことはない」の割合は前回より4.8ポイント高くなっています。

図表 350 地域包括支援センターの認知度（前回調査との比較）

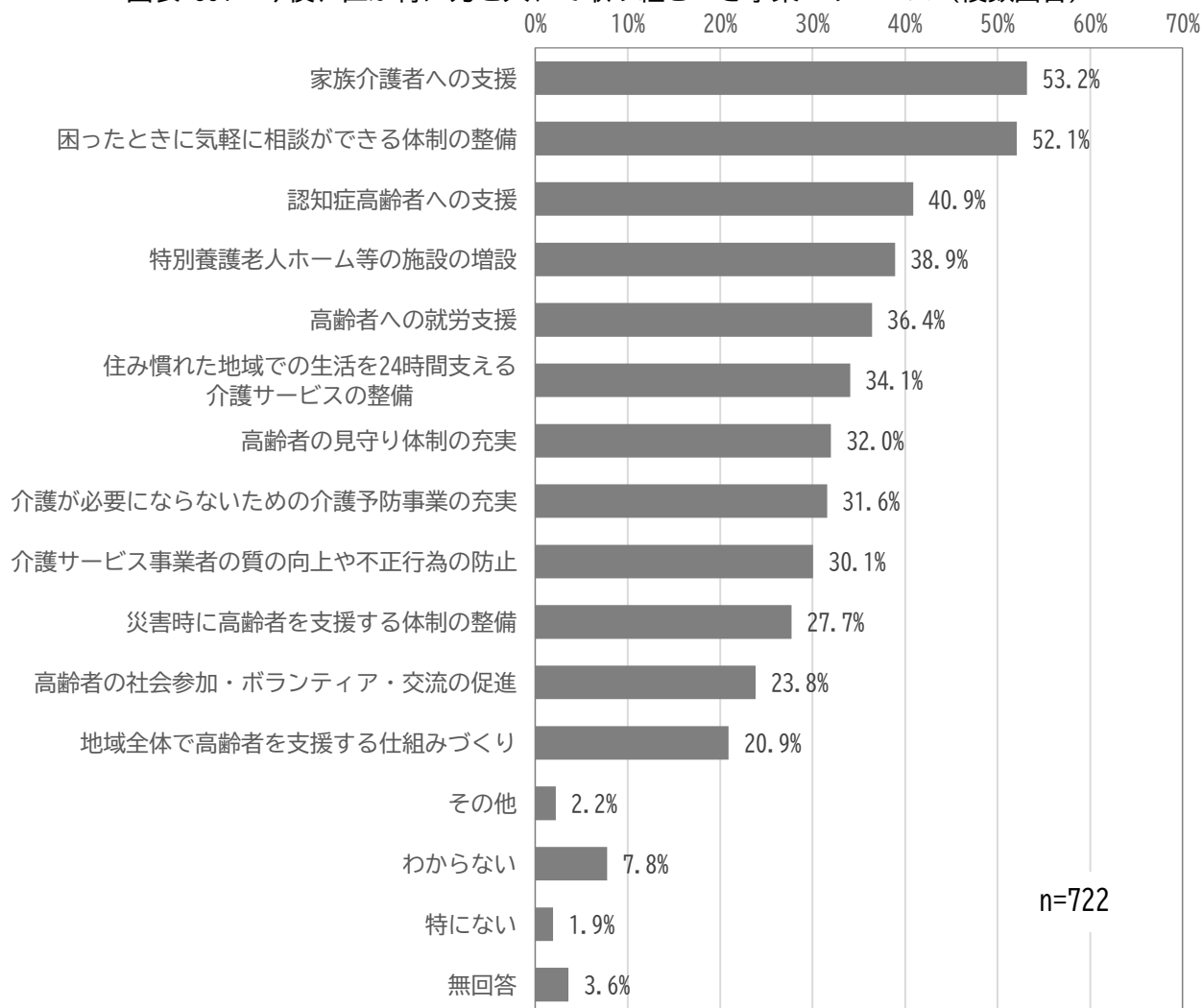


□存在を知っているし、どのようなことをする機関かも知っている
 ■名前を聞いたことがある程度で、どのようなことをしているかは知らない
 ▨名前は聞いたことがないが、そういう機関があることは知っていた
 ⊞知らない・名前も聞いたことはない
 ■無効回答・無回答

②今後、区が特に力を入れて取り組むべき事業やサービス【問 43】

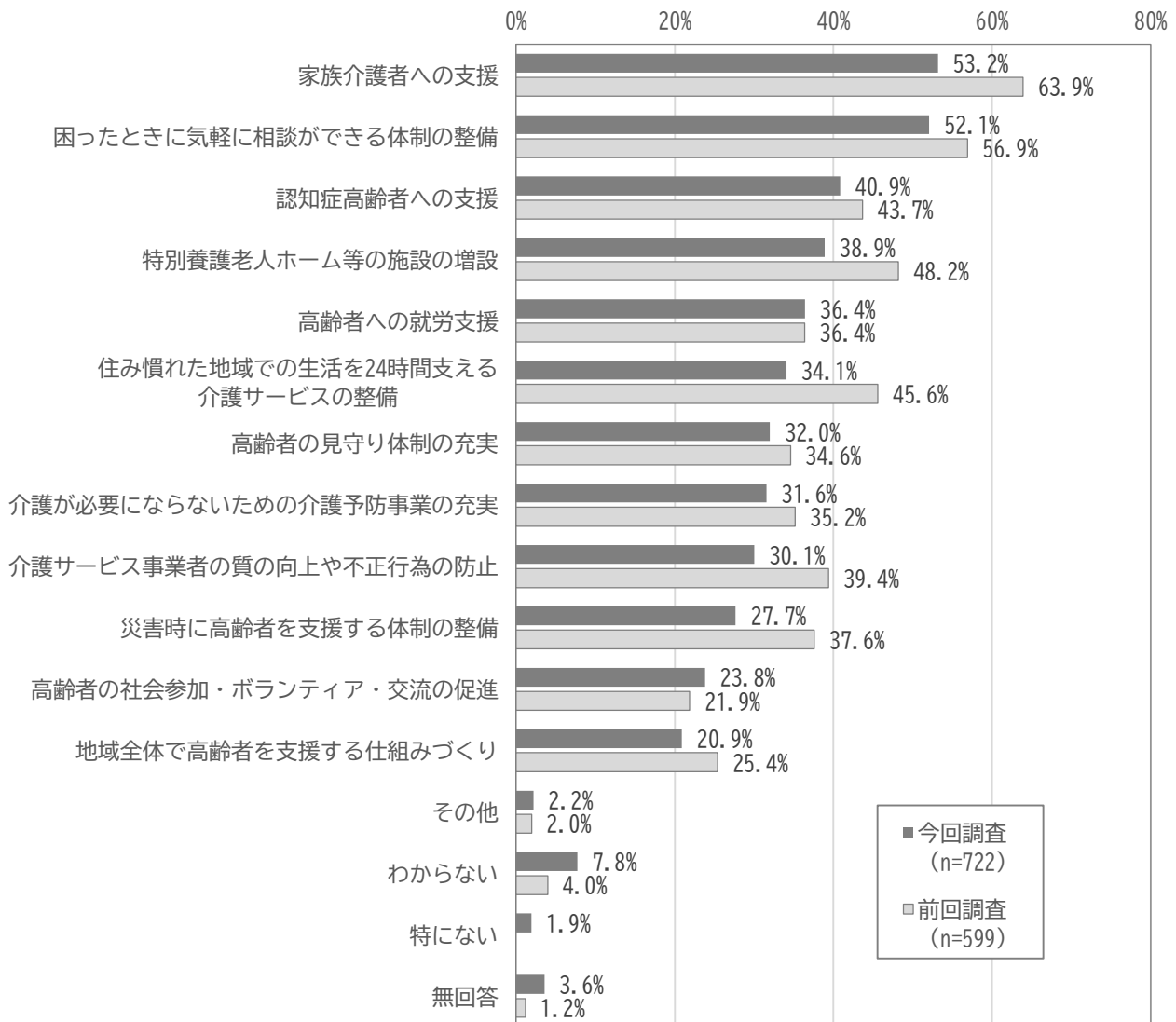
今後、大田区が特に力を入れて取り組むべきだと考えられる事業やサービスについてたずねたところ、「家族介護者への支援」が53.2%と最も多く、次いで「困ったときに気軽に相談ができる体制の整備」が52.1%、「認知症高齢者への支援」が40.9%となっています。

図表 351 今後、区が特に力を入れて取り組むべき事業・サービス（複数回答）



前回調査の結果と比較すると、前回よりも回答割合が低い項目が多く、特に「家族介護者への支援」では10.7ポイント、「住み慣れた地域での生活を24時間支える介護サービスの整備」では11.5ポイント低くなっています。

図表 352 今後、区が特に力を入れて取り組むべき事業・サービス（前回調査との比較）



※「特にない」については、前回調査には選択肢が設けられていないため、今回の調査結果のみ記載しています。

③大田区の高齢者福祉施策や介護保険事業運営に対する意見・要望（問44）

区の高齢者福祉施策や介護保険事業運営に対する意見や要望について、自由記述形式でたずねたところ、様々な回答が得られました。以下、いただいた回答の一部を掲載します。

【介護施設や高齢者の住まいに関すること：14件】

- ・認知症になった場合、家族ではお互いをフォローしきれないため、認知症を治すのではなく、穏やかに終活する場として、専用の施設が必要。
- ・老人ホームの数が足りない。家では面倒を見切れない。
- ・開放的な高齢者向けの施設を考えてほしい。

【介護予防に関すること：5件】

- ・体操など健康維持のほか、娯楽（歌う、踊る、遊ぶ）による刺激を受ける場があるといいと思う。
- ・お金のかからない、交流の場や憩いの場（ぼんやり過ごせる場）が欲しい。
- ・健康でいるための取組が大切だと思います。少しでも働いて収入を得る機会があることや、仲間作り、話せる場所等があるとよい。

【介護サービスに関すること：10件】

- ・一般的に、介護は同居が前提になっています。通いや離れて介護する家族にとっては、日中だけのデイサービスや介助ではなく、夜間や、何かあった時の状況をふまえた対策も提案してほしいです。
- ・高齢者や介護を必要とする人、また介護する人、皆が笑顔で安心して生活できる支援をお願いしたい。
- ・介護者の育成や働き続ける環境にも配慮してほしい。

【相談対応に関すること：12件】

- ・介護認定を受けた高齢者の家族からは相談しにくいことも多く、行政側からのアプローチがあると、介護している人間は救われることがあると思う。
- ・休日、夜間でも相談したいときに専門家からアドバイスを受けられる相談窓口がほしい。
- ・外国人でも気軽に利用できる、英語に対応した相談窓口がほしい。
- ・一つの窓口で相談から申請まですむのが理想的。現在もそうなっているのかもしれないが、まず、どこにいけばいいのか知りたい。

【情報発信に関すること：15件】

- ・どこにどのようなサービスがあるのか、全くわからない。興味関心がなくてもわかるような周知の仕方があるとよいのでは、と思います。
- ・区の施策や地域包括支援センターに関するパンフレットを家庭へ送付してほしい。